



Universal Business Language1.0

出版日

2004 年 5 月 1 日

文書識別子

cd-UBL-1.0

編集の状態

この文書は、OASIS 委員会ドラフトである。

場所

<http://docs.oasis-open.org/ubl/cd-UBL-1.0/>

ダウンロード可能なパッケージ場所

<http://docs.oasis-open.org/ubl/cd-UBL-1.0.zip>

編集者

Bill Meadows、サン・マイクロシステムズ〈 bill.meadows@sun.com 〉

Lisa Seaburg、AeonLLC〈 lseaburg@aeon-llc.com 〉

貢献者

[技術委員会のメンバー](#)

要約:

この仕様は、Universal Business Language を定義する。

状態

この文書は、OASIS Universal Business Language (UBL) 技術委員会の委員会ドラフトである。OASIS UBL Technical Committee は、UBL TC ウェブページでコメントリンクを使うこのリリースについて論評するよう利害関係者に勧める:

http://www.oasis-open.org/committees/comments/form.php?wg_abbrev=ubl

目次

[1 はじめに](#)

[2 標準の参照](#)

[3 条件定義](#)

[4 シンボル、及び、省略](#)

[5 UBL 1.0 調達プロセス](#)

[6 UBL 1.0 Schemas](#)

[参考 A \(有益な\): リリース注意事項](#)

[参考 B \(有益な\): UBL 方法論](#)

[参考 C \(有益な\): フォーマット仕様](#)

[参考 D \(有益な\): 参考例](#)

[参考 E \(有益な\): コードリスト](#)

[参考 F \(有益な\): ASN.1 仕様](#)

[参考 G \(有益な\): 進行中の作業商品\(アイテム\)](#)

[参考 H: 注意](#)

1 はじめに

XML は、1998 年に W3C の勧告を受けて市場に登場して以来、電子商取引で交換されるメッセージ定義のフレームワークとして多くの業界で適用されてきた。しかし、

XML が普及した結果、発注書や出荷通知、請求書といった基本的な文書について各業界で特有の XML バージョンが開発されるという事態を招いた。

業界特有のデータ形式にはその業界のビジネス コンテキストを最適化できるという利点がある一方で、異なるビジネス領域で同じ目的を達成するのに形式が異なるということには多くの重大なデメリットがあることも事実である。

- 発注書や請求書などの共通のビジネス文書に複数のバージョンを開発、保守することは膨大な労力の無駄である。
- 領域の境界を越えた取引を可能にするために複数のアダプターを構築し、保守することは更に多くの労力を必要とする。
- 複数の XML 形式が存在すれば、XML ビジネス メッセージをバックオフィスのシステムと統合することが非常に困難となる。
- 無原則の数の XML 形式をサポートするためには、高価なツールが必要なだけでなく、それを習得した作業員を見つけることが困難である。

OASIS ユニバーサル ビジネス言語 (UBL) は、総称的であり、かつ特定の業種要件に対応する拡張可能なビジネス文書の XML 交換形式を定義することによって、相互運用性の問題を解決することを目的とする。特に、UBL では次の事を提供する:

- 「住所 (Address)」、「商品 (Item)」および「支払 (Payment)」(日常的なビジネス文書に含まれる共通データ要素)などの再利用可能なデータ要素に対する XML スキーマのライブラリ。
- 一般的な発注から請求までの取引コンテキストで使用される「注文 (Order)」、「出荷通知 (Despatch Advice)」、「請求 (Invoice)」などの共通のビジネス文書に対する XML スキーマの小セット
- 規定の取引関係において UBL を拡張する際のガイドライン。

XML ビジネススキーマの標準原則には、次の利点があると考えられる:

- 共通データ構造の再利用によって、企業内および企業間の統合コストを低減する
- 商用ソフトウェア コストを低減する。一定の XML タグセットを処理するために書かれたソフトウェアの方が、無制限のタグセットに対応するソフトウェアよりはるかに開発が容易。
- 単一のライブラリをマスターすればよいことから、習得が容易である。
- 導入コストが低いことから、中小企業 (SMEs) へ迅速に適用が可能である。
- トレーニングが標準化されることから、スキルを持った作業員を多く輩出できる。
- 世界中から利用可能なシステム インテグレーターを選ぶことができる。
- 標準化と安価なデータの入出力。

UBL は法的に義務付けられたビジネス文書に対して世界中で理解かつ認知された商用構文を提供し、そして、完全な標準-ベースのインフラストラクチャ（現存する EDI システムの利益を全てのサイズのビジネスまで拡張し得る）を提供するために、ISO 15000（ebXML）のような標準のビジネスフレームワークの中で動くように設計されている。UBL は、自由に法律上の妨害、または、ライセンス料金なしで全ての人に利用可能である。

UBL スキーマの設計は、XML と同様にモジュール形式であり、再利用および拡張が可能である。ebXML Core Components Technical Specification 2.01 のインプリメンテーションとして設計されて、UBL Library は、Business Information Entities（BIEs）として知られている情報コンポーネントの概念のモデルに基づいている。これらのコンポーネントは、“Order”、及び、“Invoice”のような特定の文書モデルに組み立てられる。これらの文書アセンブリモデルは、W3C XSD 概要シンタックスへの UBL Naming、及び、Design Rules に従って変換される。このアプローチは、この 1.0 のリリースにおいて指定されたそれらを越えて UBL-ベースの文書タイプの作成を促進する。この文書は、基礎的な注文から請求までのビジネス手順（UBL 文書タイプがサポートするように設計されている）を記述する。

展開を援助するために、標準の UBL Schemas は、多くの有益な支援材料を伴う（それらのうちのいくつかは有益なアペンディクスとしてこのパッケージに含まれ、いくつかはリファレンスサイトから利用可能である）。これらの資料は、以下を含む。

- スキーマに基づいている文書コンポーネントの UML クラス図
- 全ての文書アセンブリを示す UML クラス図
- 文書アセンブリを定義するスプレッドシートモデル
- 2 つの実装事例に関する記述
- それらの 2 つの実装に使われる各々の UBL 文書の見本インスタンス
- これらのインスタンスのレンダリング例についての表記
- 各々の UBL の基礎的なビジネス文書タイプと一致する国際連合 Layout Keys のための表記法
- バイナリー形式での UBL メッセージ転送を可能にする ASN.1 仕様

2 標準の参照

[ASN.1]、ITU-T X.680-X.683、シンタックス表記法 1（ASN.1）を抽出;ITU-T X.690-X.693 :ASN.1 符合化規則

<http://www.itu.int/ITU-T/studygroups/com17/languages/X.680-X.693-0207w.zip>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6320/X.680-X.693-0207w.zip>

[CCTS] UN/CEFACT ebXML コアコンポーネント技術仕様 2.01

<http://www.untmg.org/downloads/General/approved/CEFACT-CCTS-Version-2pt01.zip>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6232/CEFACT-CCTS-Version-2pt01.zip>

[ISO11179] ISO/IEC 11179-1:1999 情報技術 R12、データエレメント R12 の仕様、及び、標準化;パート 1 : データエレメントの仕様、及び、標準化のためのフレームワーク

[http://www.iso.org/iso/en/ittf/PubliclyAvailableStandards/c002349_ISO_IEC_11179-1_1999%20\(%20E%20\)%20.zip](http://www.iso.org/iso/en/ittf/PubliclyAvailableStandards/c002349_ISO_IEC_11179-1_1999%20(%20E%20)%20.zip)

<http://www.oasis->

[open.org/committees/download.php/6233/c002349_ISO_IEC_11179-1_1999%20\(%20E%20\)%20.pdf](http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6233/c002349_ISO_IEC_11179-1_1999%20(%20E%20)%20.pdf)

[RFC2119] RFCs における使用要求レベルを示すキーワード

<http://www.faqs.org/rfcs/rfc2119.html>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6244/rfc2119.txt.pdf>

[UML] UML1.5 (正式/03-03-01)

<http://www.omg.org/docs/formal/03-03-01.pdf>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6240/03-03-01.zip>

[XML] 拡張可能マークアップ言語 (XML) 1.0 (セCONDバージョン)、W3C 推薦 2000 年 10 月 6 日

<http://www.w3.org/TR/2000/REC-xml-20001006>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6241/REC-xml-20001006.pdf>

[XSD1], XML スキーマ パート 1、構造、W3C 推薦 2001 年 5 月 2 日

<http://www.w3.org/TR/xmlSchema-1/>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6248/xsd1.html>

[XSD2], XML スキーマ パート 2、Datatypes、W3C 推薦 2001 年 5 月 2 日

<http://www.w3.org/TR/xmlSchema-2/>

<http://www.oasis-open.org/committees/download.php/6247/xsd2.html>

3 条件定義

アセンブリモデル

文書スキーマとして実行され得るツリー構造化されたモデル。

クラス図

対象クラス、及び、それらの属性、及び、関係を含んで、グラフィック表記法は、システムの静的な構造を示すために、[UML]を使用した。

コンポーネントモデル

対象クラスの間での関係、及び、役割の潜在的なネットワークを示す規範化されたデータコンポーネントの表現。

コンテキスト

何かが存在する、もしくは起こる環境を形成する状況、または、出来事。

依存図

クラス図（対象クラスの間で従属の関係を強調する）の改良。

文書

情報コンポーネントのセット（商取引の一部として置き換えられる）;例えば、注文を出す際。

機能的依存

特質の別のセットが変わるとき、すなわち、前者が後者に依存しているか否かに拘らず、特質のセットの値が変わるかどうかに基づくコンポーネントを集める方法。

標準化

機能的依存を識別して、定義するための正式の技術。

スプレッドシートモデル

表のフォームにおけるアセンブリモデルの表現。

XSD 概要

W3C XML Schema 言語 [\[XSD1\]](#) [\[XSD2\]](#) に順応する XML 文書定義。

コアコンポーネント（CC）、基礎的なコアコンポーネント（BCC）、総合したコアコンポーネント（ACC）、関係コアコンポーネント（ASCC）、ビジネス情報項目（BIE）、基礎的なビジネス情報項目（BBIE）、及び、総合したビジネス情報項目（ABIE）は、[\[CCTS\]](#)によって提供される意味を持って、この仕様において使われる。

Object Class、*Property Term*、*Representation Term*、及び、*Qualifier* は、[\[ISO11179\]](#)によって与えられた意味を持って、この仕様において使われる。

次に示すキーワード“MUST”、“MUST NOT”、“REQUIRED”、“SHALL”、“SHALL NOT”、“SHOULD”、“SHOULD NOT”、“RECOMMENDED”、“MAY” および“OPTIONAL”が本文書内で使われる場合、これらは [RFC2119]により定義された通りに解釈されなければならない。

4 シンボル、及び、省略

ABIE

総合したビジネス情報項目

ACC

総合したコアコンポーネント

ASBIE

関連ビジネス情報項目

ASCC

関連コアコンポーネント

BBIE

	基礎的なビジネス情報項目
BCC	基礎的なコアコンポーネント
BIE	ビジネス情報項目
CC	コアコンポーネント
EAN	ヨーロッパの標準化組織
EDI	電子データ交換
ISO	国際標準化機構
NDR	UBL ネーミング、そして、設計規則（アペンディクス B.4 を参照）
UML	統合モデル化言語 [UML]
UN/CEFACT	取引簡易化、及び、電子ビジネスのための国連組織
XML	拡張可能マークアップ言語 [XML]
XSD	W3C XML 概要言語 [XSD1] [XSD2]

5 UBL 1.0 調達プロセス

UBL 1.0 文書、及び、コンポーネントライブラリは、典型的な注文から請求までの調達サイクルをサポートするように設計されている。このセクションは、ビジネス規則、UBL 1.0 文書の各々によって示された一般的プロセス、及び、役割について記述する。

UBL ライブラリが 1.0 のパッケージにおいて供給されたそれらを越えて多種多様な文書タイプの構成をサポートするように設計されていることに注目することは、重要である。他の文書タイプが加えられ、UBL が拡張するであろうということが予測される。

5.1 注文から請求までのサイクル

このモデルは、Order から 3 つのパーティを包含する Invoice まで基礎的な取引サイクルの:商品の買手、商品の売り手、及び、商品の受領者、(買手ではないかもしれない)について記述する。UBL によってこのプロセスをサポートするために供給された文書タイプは、下記を含む:

注文(注文)

注文回答 (簡易注文回答)

注文回答 (詳細注文回答)

注文変更(注文変更)

注文キャンセル(注文取消し)

出荷通知

受領通知

請求 (invoice) (請求)

下の図における太枠は、一般的プロセスにおいて各文書タイプの役割を示す。

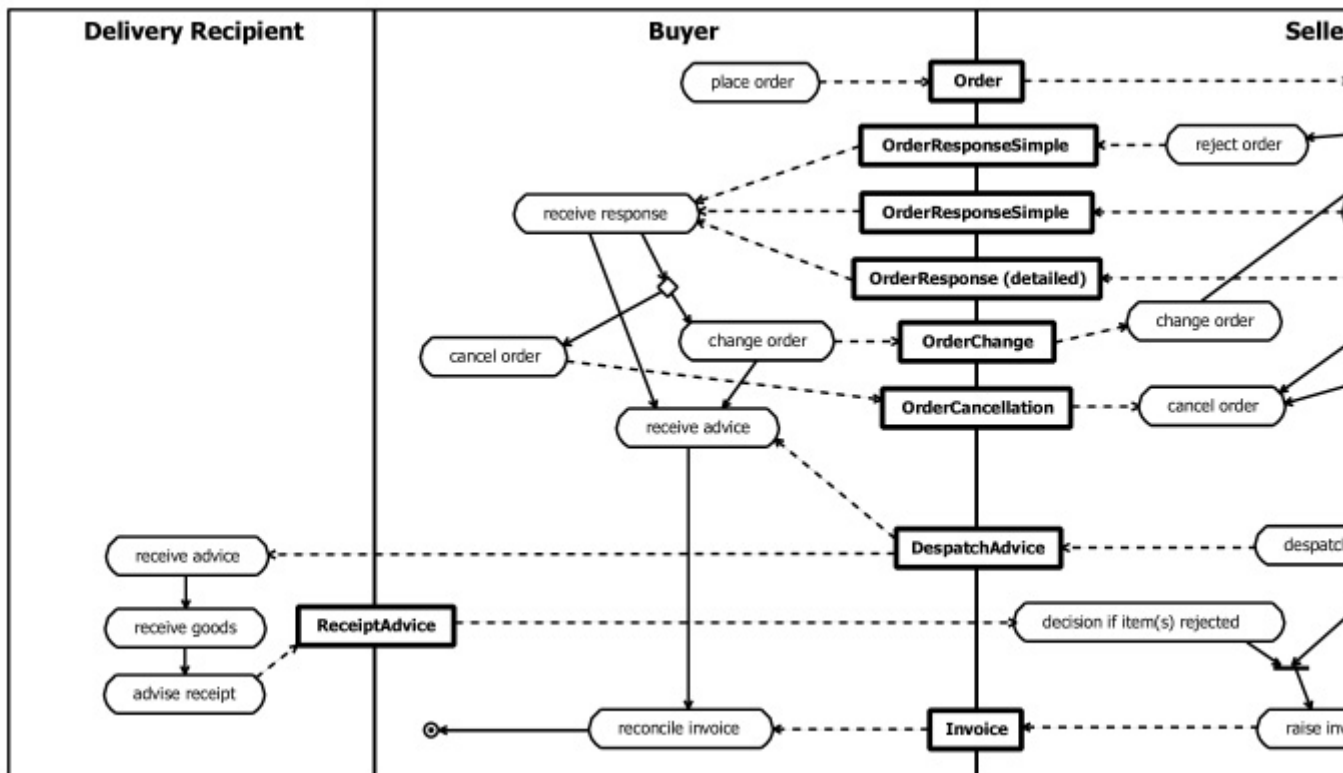


図 1。注文から請求までのビジネスプロセス

5.2 文書ビジネス規則

このセクションは、一般的な注文から請求までのプロセス（UBL 1.0における文書タイプのための情報要件として仮定される）のビジネス規則を示す。

5.2.1 注文

注文では輸送費、文書作成などの手数料支払 (Charge Payment) について、手数料種別や、誰がどの手数料について支払うべきかについて指示することがある。注文は、売り手が保有する取引用のクレジットカードや、クレジット/デビットカード、または銀行引落契約で処理することができる。注文では概して、価格 (Pricing)、請求 (invoice) (Invoice) 表示および税 (Tax) 処理に用いられる通貨 (Currency) の指定のみが可能である。Order の中で、追加の通貨は、個々の商品 (アイテム) の価格指定のために、そしてまたあらゆる割当、または、チャージのために指定され得る。

業者間割引は注文レベルで規定することができるが、買い手が業者間割引について知らない場合には規定されない。この場合には、売り手からの詳細な回答が必要となる。これについては、注文回答 (5.2.3) を参照されたい。

次に挙げる情報に関連して配送場所に適用される出荷条件や制約は、通常は出荷通知 (Despatch Advice) まで表示されないが、これを注文上で規定することができる

- ∴ 輸送 (Transport)
 - ・ 手段 (Means)
 - ・ 形態 (Mode)
 - ・ 1 対多行路 (One-to-many-legged journey)
 - ・ 日付 (Dates)
 - ・ 場所 (Locations)
 - ・ 到着「時間帯」 (Arrival 'Window')
- ・ 積荷包装 (Consignment packaging)
 - ・ 型 (Type) 例: コンテナ (Container)、パレット (Pallet)
 - ・ 識別子 (Identifier) 例: SSCC, 出荷ラベル (Shipping label) [出荷通知 (Despatch Advice)]

- 輸送
 - 手段
 - 形態
 - 1 対多行路 (One-to-many-legged journey)
 - 日付
 - 場所
 - 到着「時間帯」
- 積荷包装

- 型、例:コンテナ、パレット
- 識別子、例:SSCC、出荷ラベル、出荷通知

注文は、複数の明細行を持つ。各注文明細行は単一の出荷先、予定数量および希望納入日を規定する。

注文明細行が配送を指示する一方で、注文が出荷条件を規定することができる。

買い手は許容範囲で代替案を提示することができる。各注文明細行に代替品目 (Alternative 商品)を含めることができる。代替品目は品目識別子の範囲内の任意のひとつによって規定することができる。例えば、指定された数量(Quantity)は、「10x12 個入りパック」の代替として「20×6 入りパック」等に変更することができる。

5.2.2 注文回答 (簡易)

注文回答(簡易)とは、売り手が買い手からの注文を受理したことを識別するための手段であり、変更なく納品が約束されるか、または注文が拒否されたかのいずれかを意味する。

5.2.3 注文回答

売り手による変更案は、完全な注文回答(Order Response)文書によって実現される。

注文回答(複合)は、注文を完全に置き換えるものであり、発注取引の全状況を反映する。また、発注時点では買い手が利用できなかった、または買い手によって規定されなかった注文に関連する詳細について、売り手が買い手に対して識別または提供するための手段である。

- 買い手による指定日がない場合に売り手が提示する納入日(Delivery date)
- 価格
- 業者間割引
- 手数料
- カスタム商品分類コード(Customs Commodity Classification codes)

売り手は注文回答(複合)を使って代替品や代用品、または必要に応じて変更を勧告することができる。代用品目(Substitute 商品)または代替品目(Replacement 商品)は、品目識別子の範囲内の任意のひとつによって規定することができる。例えば、指定された数量(Quantity)は「10x12 個入りパック」の代替として「20×6 入りパック」等に変更することができる。

5.2.4 注文変更(Order Change)

買い手は、法的契約または業者間契約に従って、注文変更の送付または注文取消 (Order Cancellation 5. 2. 5を参照)とともに新規の代替注文を送付することによって注文を変更することができる。

“注文変更 (Order Change)”は、注文取引の全体の現在の状態を反映する。

買い手は既に受理された注文に対して変更を行うことができる。買い手は、発注品目、数量、納入日、出荷先住所の変更などの様々な理由で注文を変更することができる。売り手はいずれかのタイプの注文回答 (Order Response) 文書を使って、変更注文を受入または拒否することができる。

5.2.5 注文キャンセル

買い手はプロセスの任意の時点において、注文取消 (Order Cancellation) 文書によって有効な発注取引を取り消すことができる。注文取消は、法的契約、業者間契約およびビジネス ルールによって、どの時点から無効になるかについて制限されることが想定される (例: 製造または出荷プロセスが開始された時点)。契約や規則との関係から、注文取消が自動処理されるかどうかはまちまちである。ビジネス コミットメントの契約作成に関する契約条件において、これらの制約および/または規約の適用可否が決定される。

5.2.6 出荷通知

出荷通知 (Despatch Advice) では次に挙げる情報を含むことができる。:

- 輸送
 - 手段
 - 形態
 - 1対多行路
 - 日付
 - 場所
 - 到着時間帯
- 積荷包装
 - タイプ、例: 容器、パレット
 - 識別子、例: SSCC、出荷
 - ラベル

出荷通知は以下の 2 つの状況を満たす。

- 輸送制御単位 (Transport Handling Unit) による品目の出荷セットの編成。これによって、受入先は輸送制御単位を検査した後に梱包品目を識別することができる。同一注文明細行にある同一品目のいくつかは、異なる輸送制御単位に分かれることがある。その場合はひとつの輸送制御単位で出荷明細行が分かれる。

- ・ 出荷明細行(Despatch Line)による品目の出荷セットの編成。輸送制御単位は、注文との検査を促すために注記される。便宜のために、注文明細行が複数の輸送制御単位に分割された場合は、それらが含まれるひとつの輸送制御単位に対してひとつの出荷明細行となる。

いずれの場合においても、出荷通知では以下のことを勧告することができる：

- ・ 全出荷(Full Despatch) – 受入先および／または買い手に対して、全ての発注品目が予定日に単一の完全な積荷で納入予定、または納入中である。
- ・ 部分出荷(Partial Despatch) – 受入先および／または買い手に対して、発注品目の一部は予定日に単一の積荷で納入予定、または納入中である。

出荷通知の出荷明細行は注文明細行と1対1で対応する必要はないが、その場合は参照でリンクされる必要がある。出荷通知の情報構造は、物理的な要因によって変更された結果、ひとつの注文明細行が複数の出荷明細行を持つことがある。同様に、部分出荷では、ある出荷通知に含まれる明細行と照合しない注文明細行が存在することがある。

出荷通知では、品目の原産国(Country of Origin)および品目の危険性(Hazardous nature of the 商品)について知らせることができる。

5.2.7 受領通知 (Receipt Advice)

受領通知(Receipt Advice)は、商品(アイテム)の受取りを識別するために、Receiver(買手)から売手へ送られ、そして、不足、もしくは、損傷した商品(アイテム)を報告することが可能である。

受領通知(Receipt Advice)は以下の2つの状況を満たす。配送に関するクレーム処理を簡素化するためには、出荷通知の照合と同様の方法で編成される必要がある：

- ・ 輸送制御単位(Transport Handling Unit)による受入の指示。受入明細行を含み、売り手側が詳細にした出荷通知と1対1で対応する。
- ・ 受入明細行による受入の指示。輸送制御単位が注記され、売り手側が詳細にした出荷通知と1対1で対応する。

受領通知では、クレームによる数量不足やなんらかの理由によって受入拒否された数量について述べることができる。

現在の受入明細行(Receipt Line)では、受入拒否された数量およびその理由をひとつのみ指定することができるようになっている。しかし、複数の同一品目を異なる理由で受入拒否する場合は、受入明細行を分割し、ひとつの出荷明細行に対して複数の受入明細行を作成することで実現できる。

5.2.8 請求(invoice)

請求 (invoice) は通常、ひとつの出荷イベントに対してひとつの請求 (invoice) という形で発行される。請求 (invoice) は全額または一部の前払支払について発行することもできる。以下のような可能性が考えられる:

- 前払い請求 (invoice) (支払が予定されている)
- 見積請求 (invoice) (支払通知であり、支払は行われない)
- 通常の請求 (invoice) (出荷された品目に対して出荷時に発行される)
- 受領通知到着後に発行される請求 (invoice)

請求 (invoice) には請求処理に必要な情報のみが含まれる。注文、注文変更、注文回答 (複雑)、出荷通知または受領通知などに既に含まれ、請求時に不要な情報は繰り返されない。請求 (invoice) は、注文、出荷通知または受領通知をレファレンス (Reference) によって参照する。

請求 (invoice) は、データ ストリームで繰り返される情報の順序に従った一連の計算を行う複合税に対応している (例: エネルギー税の上に消費税を乗せる)。

手数料には、定額または税計算前の総請求額に対する割合によって規定することができる。これには以下に挙げる手数料が含まれる::

- 梱包料
- 配送料/郵便料金
- 運賃
- 文書作成料

請求 (invoice) 明細行は関連する注文明細行 (Order Line) を参照する。また、出荷通知明細行 (Despatch Advice Line) および/または受領通知明細行 (Receipt Advice Line) を参照することができる。

請求 (invoice) は現在、借方票 (Debit Notes) および貸方票 (Credit Notes) には対応していない。また、未決済の請求 (invoice) や借方票および貸方票を合算する残高識別書 (Customer Account Statement) にも対応していない。

5.3 商品ビジネス規則

商品構造は、一般的プロセスにおける文書タイプの至る所に発見される。

5.3.1 商品識別

Identifier は、各商品 (<例>、商品識別子) (下記のうちの 1 つであることになっている) を識別する:

- 買手の商品識別子、または
- 売手の商品識別子、または
- 生産者の商品識別子、または
- カタログ商品識別、もしくは、
- 標準化組織によって発布されたシステムに基づいた商品識別子。

商品 Identification は、商品（例えば、6 パック、及び、同じ商品 12 パックの）の異なる包装ごとに異なる商品 Identifier を持っているとは推測する。

商品は、Measurement (s)、もしくは、Physical Attribute (s) の仕様によって更に区別されるかもしれない。これは、次の種類の商品(アイテム)の仕様を可能にする:

5.3.1.1 記述を必要とする商品(アイテム)

これは、曖昧でない機械処理可能な商品コードで識別されず、そして、それを正確に識別するのに追加の記述的情報を必要とする商品(アイテム)である。

5.3.1.2 顧客が定義した商品(アイテム)

これは顧客が顧客の必要性、および顧客が相当する「標準」の項目の何らかの参照による仕様で説明する項目です。

これは、顧客の必要性にしたがって記述される。そして、その顧客が相等する“標準 (standard)”を参照して仕様を記述かもしれないアイテムである。

5.3.1.3 測定を必要とする商品(アイテム)

これは、それが商品(アイテム)の記述的な仕様の一部として1つ以上の測定を指定するために必要である商品(アイテム)である。

5.3.2 商品(アイテム)価格

あらゆるある商品に対し、“amount”や“quantity”等による金額範囲は、売手へ繰り返されない。唯一、アクティブな価格のみが、指定される。買手は、どちらがそれをケースに入れるかにおける商品 基本価格が指定されないということを知らないかもしれない。これによって、売手からの詳細な応答が必要になる;(注文回答を参照)

5.3.3 その他の商品詳細

商品(アイテム)は、危険な商品(アイテム)を含むかもしれない(注文ステージで関連の情報を指定することが必要ではないので)。買手は、商品の性質に気づいていないかもしれない。商品の危険性質の指示、及び、あらゆる関連情報は、出荷通知 (Despatch Advice)で示されるであろう。

6 UBL 1.0 Schemas

UBL XSD Schemas は、UBL によって定義された文書アセンブリモデルのインプリメンテーションである。それらは、UBL 1.0 文書タイプ、及び、ライブラリコンポーネントの唯一の標準の表現である。

UBL 1.0 XSD Schemas の全ては、UBL 1.0 リリースパッケージの xsd/サブディレクトリに含まれる（1.0 のリリースパッケージの構造に関する更に多くの情報のための Appendix A、及び、概要モジュールの間の依存に関する情報のための Section 6.4 を見なさい）。xsd/ディレクトリは、更に xsd/maindoc/、xsd/common/、及び、xsd/codelist/サブディレクトリに細分化される。

Schemas を実行することにおける利便性のために、注釈要素が取り除かれている状態で設定された平行で(技術的に非標準)の「ランタイム」を xsdrt/ディレクトリに提供します。

6.1 UBL 文書 Schemas

8 つの基礎的な文書タイプ（一般的な UBL 1.0 注文から請求までのプロセスをサポートする）を定義する XSD Schemas は、下でリストされた xsd/maindoc/ディレクトリに位置している。

注文

[xsd/maindoc/UBL-Order-1.0.xsd](#)

注文回答

[xsd/maindoc/UBL-OrderResponse-1.0.xsd](#)

注文回答(簡易)

[xsd/maindoc/UBL-OrderResponseSimple-1.0.xsd](#)

注文変更

[xsd/maindoc/UBL-OrderChange-1.0.xsd](#)

注文キャンセル

[xsd/maindoc/UBL-OrderCancellation-1.0.xsd](#)

出荷通知

[xsd/maindoc/UBL-DespatchAdvice-1.0.xsd](#)

受領通知

[xsd/maindoc/UBL-ReceiptAdvice-1.0.xsd](#)

請求 (invoice)

[xsd/maindoc/UBL-Invoice-1.0.xsd](#)

6.2 UBL の一般の Schemas

xsd/一般のディレクトリは、xsd/maindoc における 8 文書 Schemas が参照を付けた 6 Schemas を含む。これらの一般の Schemas のうちの 2 つは、主な文書 Schemas が組み立てられる再利用可能なデータコンポーネントの UBL ライブラリを含む。その中の 3 つは、[CCTS] に準拠した実行するのに必要とされる定義を含む; そして、1 つは、概要メタデータに一貫したフォーマットを提供する。その内容の簡単な説明と共に各概要ファイルの名前は、下で与えられる。

6.2.1 再利用可能な BIE Schemas

一般の基礎的コンポーネント

[xsd/common/UBL-CommonBasicComponents-1.0.xsd](#)

この Schema は UBL 中で使用されるグローバルな Basic Business 情報 Entities(BBIEs)を定義します、事実上、ドキュメントを構成するための「グローバルな BBIE タイプデータベース」として役立っている。UBL Naming、及び、Design Rules によって指定されたように、この概要は、Code、もしくは、Identifier datatypes を持つ BBIEs を含まない;それらが使われるところはどこでも、これらは、局所的に定義される。

一般の総合したコンポーネント

[xsd/common/UBL-CommonAggregateComponents-1.0.xsd](#)

この Schema は UBL 中で使用される Aggregate Business 情報 Entities(ABIEs)を定義します、事実上、主なドキュメントを構成するための「ABIE タイプデータベース」として役立つ。

6.2.2 再利用可能な Datatype Schemas

コアコンポーネントタイプ

[xsd/common/UBL-CoreComponentTypes-1.0.xsd](#)

この概要は、[CCTS] に定義された Core Component Types を供給する。これらのタイプは、標準化された、そして、一貫した方法において更に高いレベルの datatypes を組み立てるために使われる。この概要は、修正されるべきでない。

不特定の Datatypes

[xsd/common/UBL-UnspecializedDatatypes-1.0.xsd](#)

[CCTS] で指定されたように、この概要は、主要な、そして第 2 の表現期間の間 Unqualified Data Types を定義する。Core Component Types から得られて、これらの XSD complexType 構造は、全ての他のデータタイプが由来しなければならない基本資料タイプである。この概要は、修正されるべきでない。

特定の Datatypes

[xsd/common/UBL-SpecializedDatatypes-1.0.xsd](#)

この概要は、[CCTS] に定義された Qualified Data Types を供給する。これらの XSD complexType 構造は、拡張、制限、及び、面のような他

のコンテキスト上の制限によって Unspecialized Datatypes から得られる。Specialized Datatypes は、UBL 1.0 調達プロセスのために注文どおりに作られ、そして、更に他のビジネスコンテキストのために必要とされるサポートの追加の datatypes まで拡張されるかもしれない。

注意事項:

用語 “ specialized ”、及び、“ unspecialized ” は、[XSD1][XSD2] の適切および不適切な名称による混乱を回避するために、用語 “ qualified ”、及び、“ unqualified ” の代りに使われる。

6.2.3 文書メタデータ概要

コアコンポーネントパラメータ

<xsd/common/UBL-CoreComponentParameters-1.0.xsd>

この概要は、他の全ての Schemas に現れる注釈/文書セクションの構造を定義する (Object クラス、代替表現、意味の記述、及び、他の補足情報などのようなメタデータに一貫したフォーマットを提供)。

6.3 UBL コードリスト Schemas

UBL1.0 に必要である 13 のコードリスト schemas が <xsd/codelist> ディレクトリに含まれています。これらのコードリスト schemas は、主なドキュメント schemas のどれかへのコンポーネントインスタンス conformant がコードリスト値に対して有効にされるのを許容します。UBL コードリストに使用される表現のフォームに関する詳細に関して Appendix E を見てください。

承認応答コード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-AcknowledgementResponseCode-1.0.xsd>

割当チャージ理由コード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-AllowanceChargeReasonCode-1.0.xsd>

チャネルコード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-ChannelCode-1.0.xsd>

チップコード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-ChipCode-1.0.xsd>

国識別コード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-CountryIdentificationCode-1.0.xsd>

通貨コード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-CurrencyCode-1.0.xsd>

文書状態コード

<xsd/codelist/UBL-CodeList-DocumentStatusCode-1.0.xsd>

緯度方向コード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-LatitudeDirectionCode-1.0.xsd](#)

ライン状態コード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-LineStatusCode-1.0.xsd](#)

経度方向コード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-LongitudeDirectionCode-1.0.xsd](#)

オペレータコード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-OperatorCode-1.0.xsd](#)

支払い意味コード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-PaymentMeansCode-1.0.xsd](#)

代用状態コード

[xsd/codelist/UBL-CodeList-SubstitutionStatusCode-1.0.xsd](#)

6.4 スキーマ依存

次の図は、UBL 1.0 文書スキーマを含むスキーマモジュールの間での依存を示す。
(別の UML 図をこのリリースに使用したので) 従属のコンポーネントがそれらが依存するコンポーネントを指し示すことに注目する。

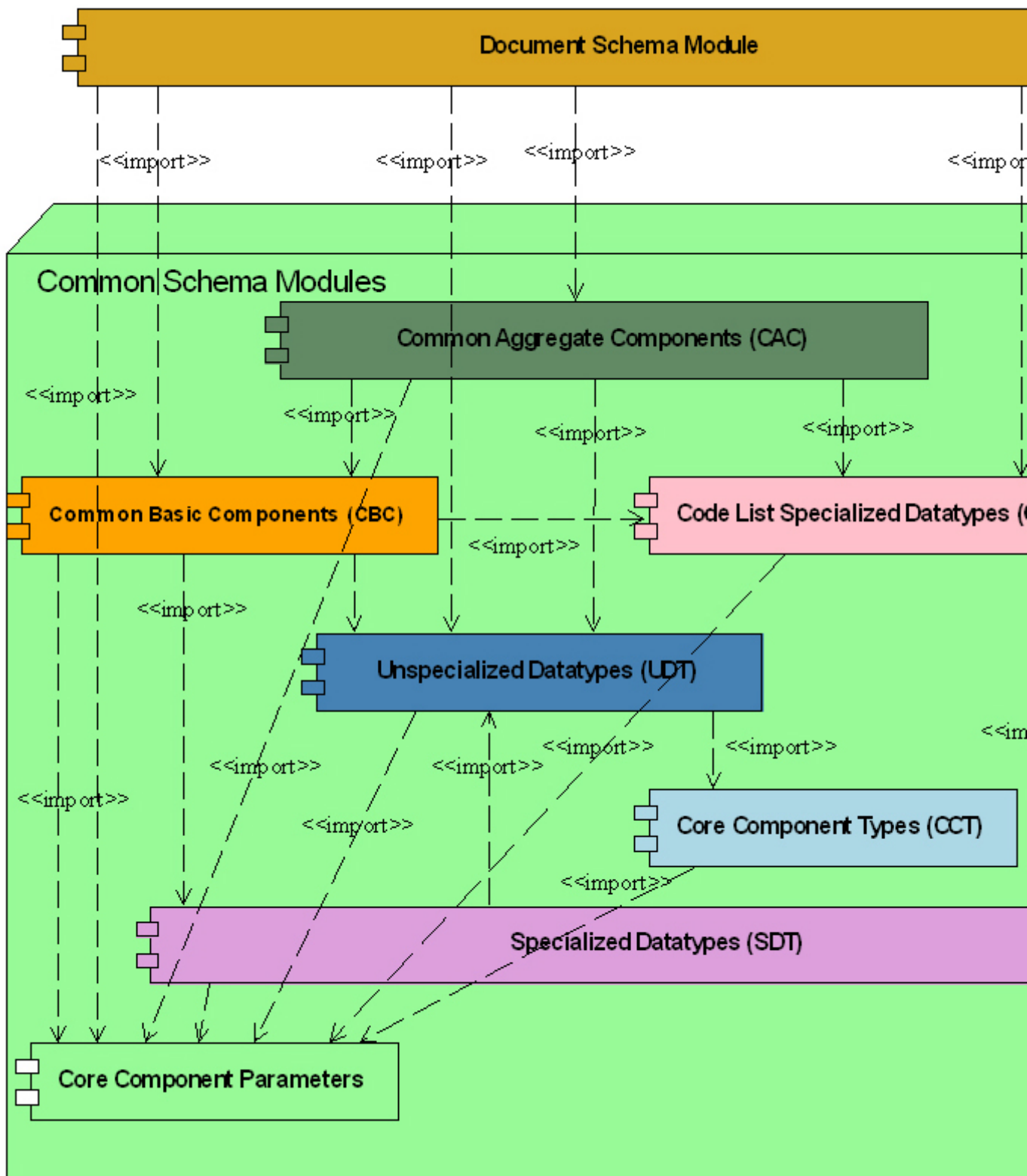


图 2。UBL 概要依存

アペンディクス A (有益な) :リリース注意事項

A.1 有用性

このリリースのオンライン、そしてダウンロード可能なバージョンは、この文書のトップで指定された場所から利用可能である。

A.2 パッケージ構造

UBL 1.0 仕様は、cd-UBL-1.0.zip という名称の Zip データとして公表される。この Zip データを開けると、主なハイパーテキスト文書（この文書、index.html）、及び、いくつかのサブディレクトリを含む cd-UBL-1.0 と指定されたディレクトリを造る。Index.html とリンクされたこれらのサブディレクトリにおいて、様々な1. 0リリースにおける情報のピースを含む。各サブディレクトリの内容は以下に記述される。

art/

この仕様において使われる図、及び、実例

asn/

ASN.1 仕様;アペンディクス F を見る

doc/

UBL TC によって造られ、そして、この仕様において参照を付けられた
付属書類

fs/

書式設定仕様;アペンディクス C を見る

mod/

UBL スプレッドシートモデル;アペンディクス B.3 を見る

uml/

UML 図;アペンディクス B.2、B.3、及び、B.6 を見る

xml/

実装例;アペンディクス D を見る

xsd/

XSD Schemas ;セクション 6 を見る

xsdrt/

“Runtime” XSD Schemas;セクション 6 を見る

A.3 ツール

UBL は、自由なそしてまた商業 UBL ツールの開発を巻き起こした。UBL のための現在の利用可能なツールのリストは、UBL Tools、及び、Techniques Subcommittee のウェブページで見つかる:

http://www.oasis-open.org/committees/tc_home.php?wg_abbrev=ubl-ttsc.

A.4 サポート

UBL は、国際的業界の有志のプロジェクトである。UBL に関する質問は、公の ubl-dev リストに提示され、以下のしめす場所にある。

<http://lists.oasis-open.org/archives/ubl-dev/>

ubl-dev への申込みは、OASIS リストマネージャーを通じて、行われる

<http://lists.oasis-open.org/ob/adm.pl>

A.5 の帰納的構造

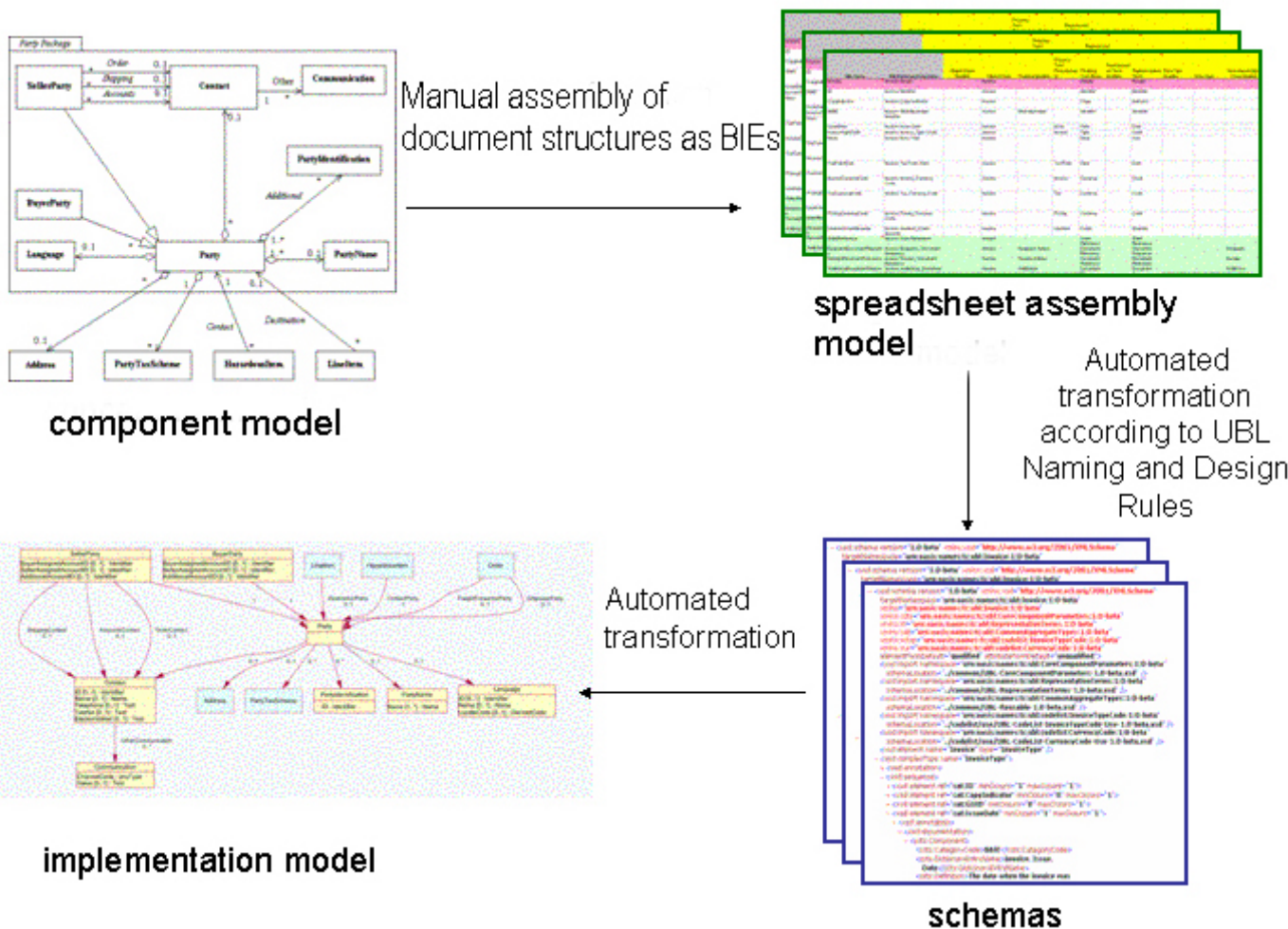
ライブラリにおけるあるコンポーネントは、帰納的ネスティングを許す。例えば、Package は、他の Packages を含むかもしれない、Delivery は、別の Delivery を指定するかもしれない、等。これらは、合法的なビジネスデータ構造である。現実の社会における多くのアプリケーションは、そのような構造において帰納の深さを制限するであろう。しかし、XSD Schemas は、この制限を表すことが不可能である。実装者 (Implementors) は、これに気づいているべきであり、そして、それらのアプリケーションにおいて帰納的構造の深さに制限を設けることを望むかもしれない。

アペンディクス B (有益な): UBL 方法論

B.1、UBL 開発アプローチ、

UBL は、特定の正式の開発方法の使用を命令しない。このセクションの目的は、このパッケージに含まれる様々な技術的な人工品の役割を理解し得るように、UBL の開発の間に発展した手順を記述することである。それらは、それらの要求に適するために、このアプローチを適応させることに同じく決めるかもしれない。

UBL 1.0 を開発するために使われるアプローチは、下の図において示される。



B-1 UBL 開発プロセス

データコンポーネントの最初の UBL ライブラリは、xCBL 3.0 スキーマライブラリ（それ自体 UN/EDIFACT、及び、ANSI X12 EDI コンポーネントライブラリに基づいた）に基づいていた。レビューに関して、それは、反復の開発 lifecycle を更によくサポートするであろうフォームにおいて実体の抽出された概念のモデルを造るために必要であると思われた。

UBL は、2 タイプの概念のモデル、情報コンポーネント、及び、いかにこれらのコンポーネントが文書定義に組み立てられるかを示すことの一組のモデルを定義することの 1 つのモデルを使う。前者は、文書コンポーネントモデルと言われ、そして、一般に UML クラス図を用いて提示される（下の B.2 を見る）；後者は、文書アセンブリモデルと言われ、そして、一般にスプレッドシートを用いて提示される。

UBL 1.0 調達プロセス(Procurement Process)によって必要とされるコンポーネントの識別、及び、アセンブリは、領域、コンポーネントモデル、及び、要求のビジネス知識を用いてマニュアルで導かれた、の [CCTS]。個々のスプレッドシートは、UBL 1.0 調

達シナリオにおける各文書タイプのために開発され、そして、全ての再使用されたコンポーネントは、結合して個別のスプレッドシートになった。追加のスプレッドシートは、[\[CCTS\]](#)指定されたように、Core Component Types (CCTs)、Unspecialized Datatypes (UDTs)、及び、Specialized Datatypes (SDTs)をモデル化するために使われた。UBL 1.0 によって使われるスプレッドシートアセンブリモデルのフル・セットは、Section B.3 において示される。

この仕様の Section 6 に含まれる UBL Schemas は、スプレッドシートアセンブリモデルから自動的にそれから発生した (Section B.5 において示されたプロセスに基づいた Section B.4 において参照を付けられた UBL Naming、及び、Design Rules の後で)。インプリメンテーションモデルは、UBL を実行する際援助として役立つために、Schemas からそれから生まれた。Section B.6 において供給されたこれらの UML クラス図は、スプレッドシートにおいて示された文書アセンブリモデルのインプリメンテーションを表す。

B.2 コンポーネントモデル

UBL 文書コンポーネントモデルは、UBL 1.0 によって定義された文書の全てにおいて使われる情報コンポーネントを示す。

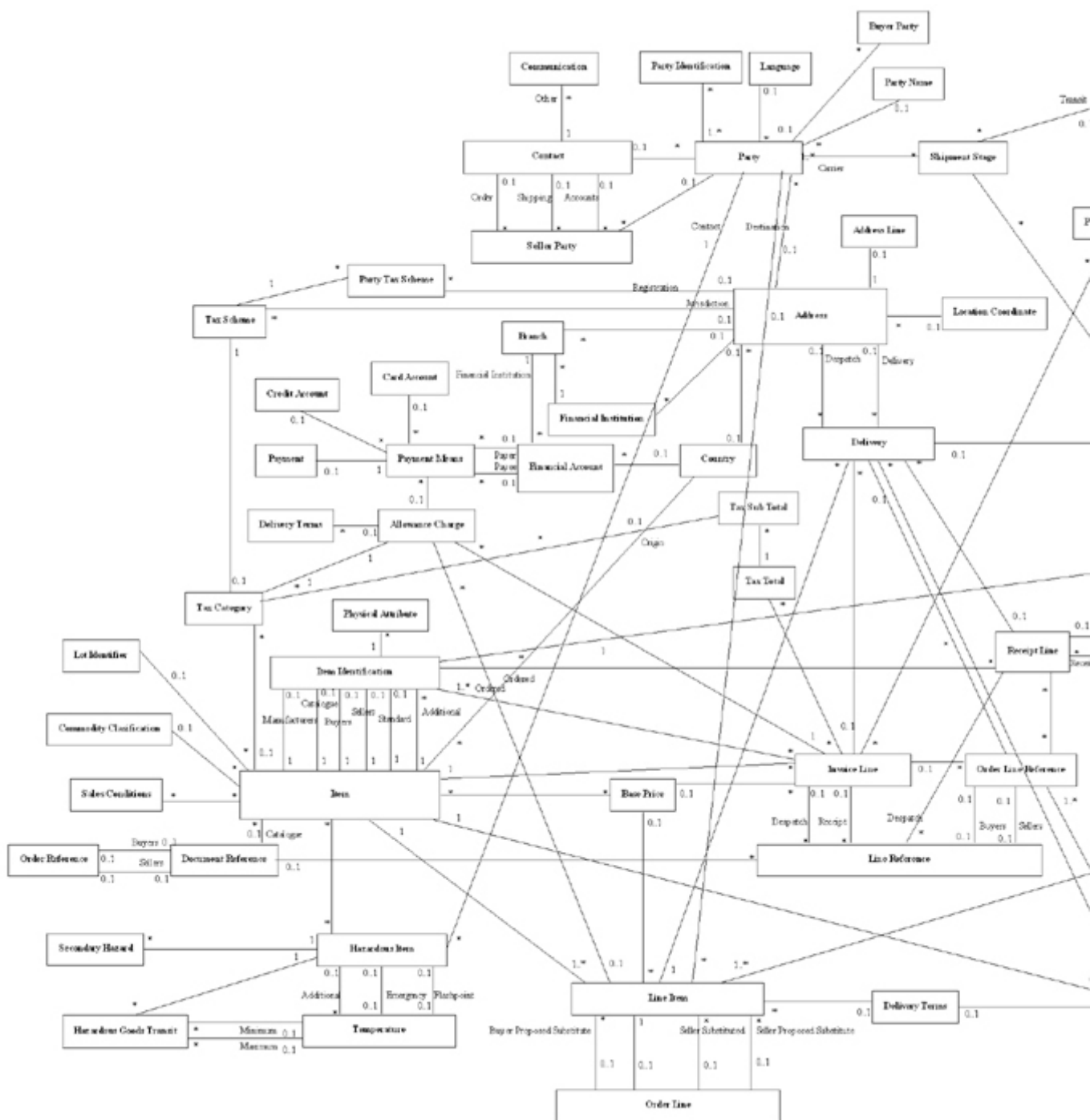
文書コンポーネントモデルは、UBL 1.0 調達プロセス (Procurement Process) をサポートするために、データ要求の詳細な分析の結果である (Section 5 を見なさい)。モデル化プロセスの間、データの一般の商品 (アイテム) は、標準化のプロセスによって機能的依存に基づく集合を識別するために識別された。適切な所で、様々なビジネス文書をサポートするためにそれらが再使用されるように、これらは、一般化された。

文書コンポーネントモデルは、次の目的のために使われる:

- それは、再利用可能なコンポーネントの識別を促進する;(そのデータ構造は UBL 1.0 ビジネス文書全般に一般的である)
- それは、トータルシナリオの情報要件を理解することを援助する
- それは、BIEs が UBL 文書アセンブリモデルにおいて得られて、実証されるソースである

コンポーネントモデルは、一連の UML Class Diagrams と最もよく見なされる。可読性のために、そのモデルは、文書アセンブリのために必要とされるメタデータ全てを含むとは限らない。

数字 B-2 は、全体の UBL 文書コンポーネントモデルを示す。



B-2 UBL 文書コンポーネントモデル

この図の理解を促進するために、それは、いくつかのパッケージに分解された。各パッケージは、コンポーネントの論理的分類を表し、そして、それ自身の UML クラス図（パッケージにおいて集められたコンポーネントに属する双方の属性（基礎的 BIEs））、

及び、対象クラス（総合した BIEs）を示す）によって示される。各パッケージの範囲は、随意であり、そして、これらの図を越えて意味を全く保持しない。

例えば、Party の再利用可能なコンポーネントパッケージは、下で示される。

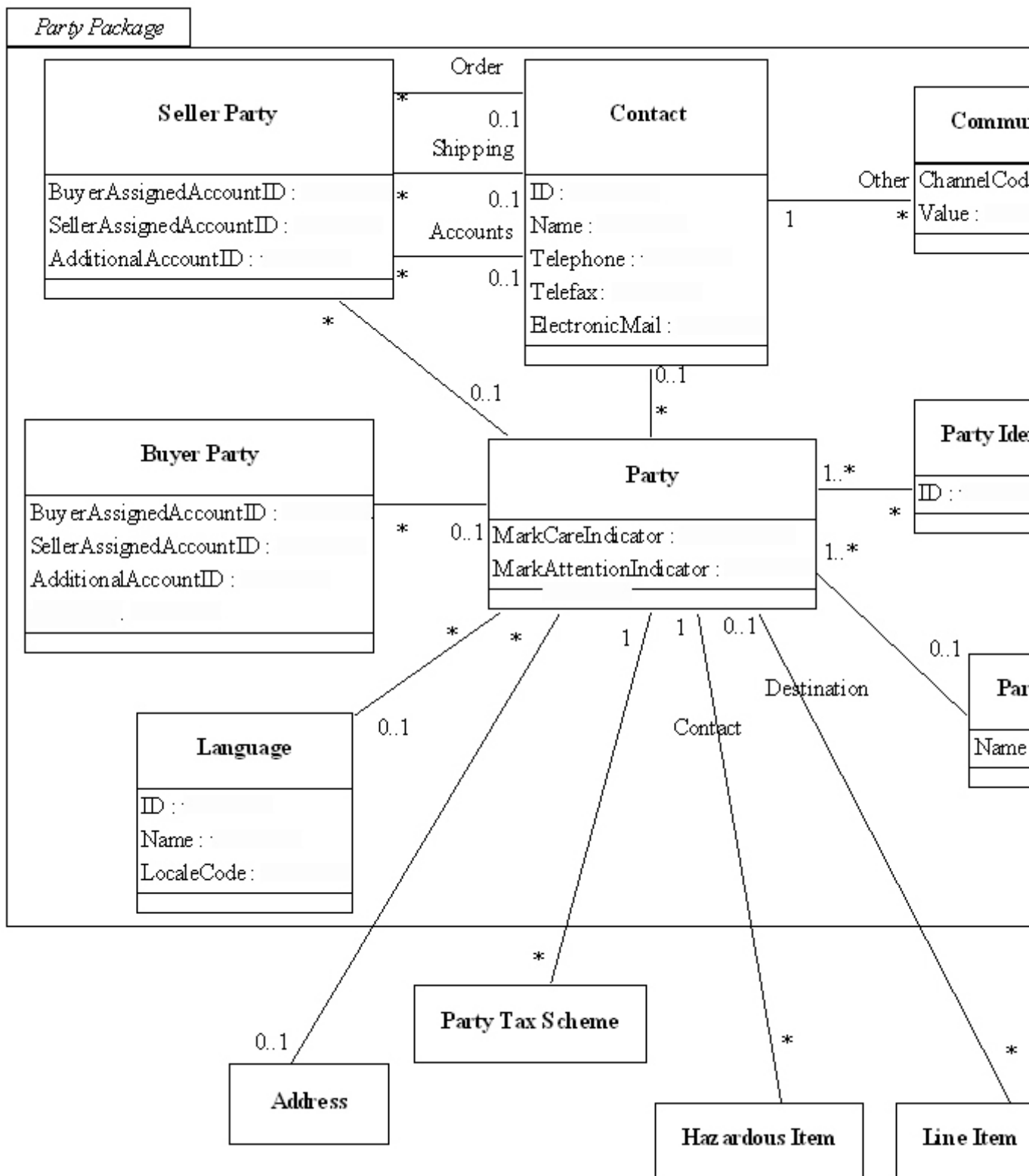


図 B-3 パーティコンポーネントパッケージ

全ての UBL コンポーネントのためのパッケージの完全なセットは、下でリストされる。

アドレスパッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-AddressPackage.jpg>

契約パッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-ContractPackage.jpg>

供給パッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-DeliveryPackage.jpg>

文書参照パッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-DocumentReferencePackage.jpg>

冒険的な商品(アイテム)パッケージ

[uml/concept/comp/UBL-1.0-Hazardous 商品 Package.jpg](uml/concept/comp/UBL-1.0-Hazardous%20商品%20Package.jpg)

商品(アイテム)パッケージ

[uml/concept/comp/UBL-1.0-商品 Package.jpg](uml/concept/comp/UBL-1.0-商品%20Package.jpg)

パーティパッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-PartyPackage.jpg>

支払いパッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-PaymentPackage.jpg>

調達パッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-ProcurementPackage.jpg>

税パッケージ

<uml/concept/comp/UBL-1.0-TaxPackage.jpg>

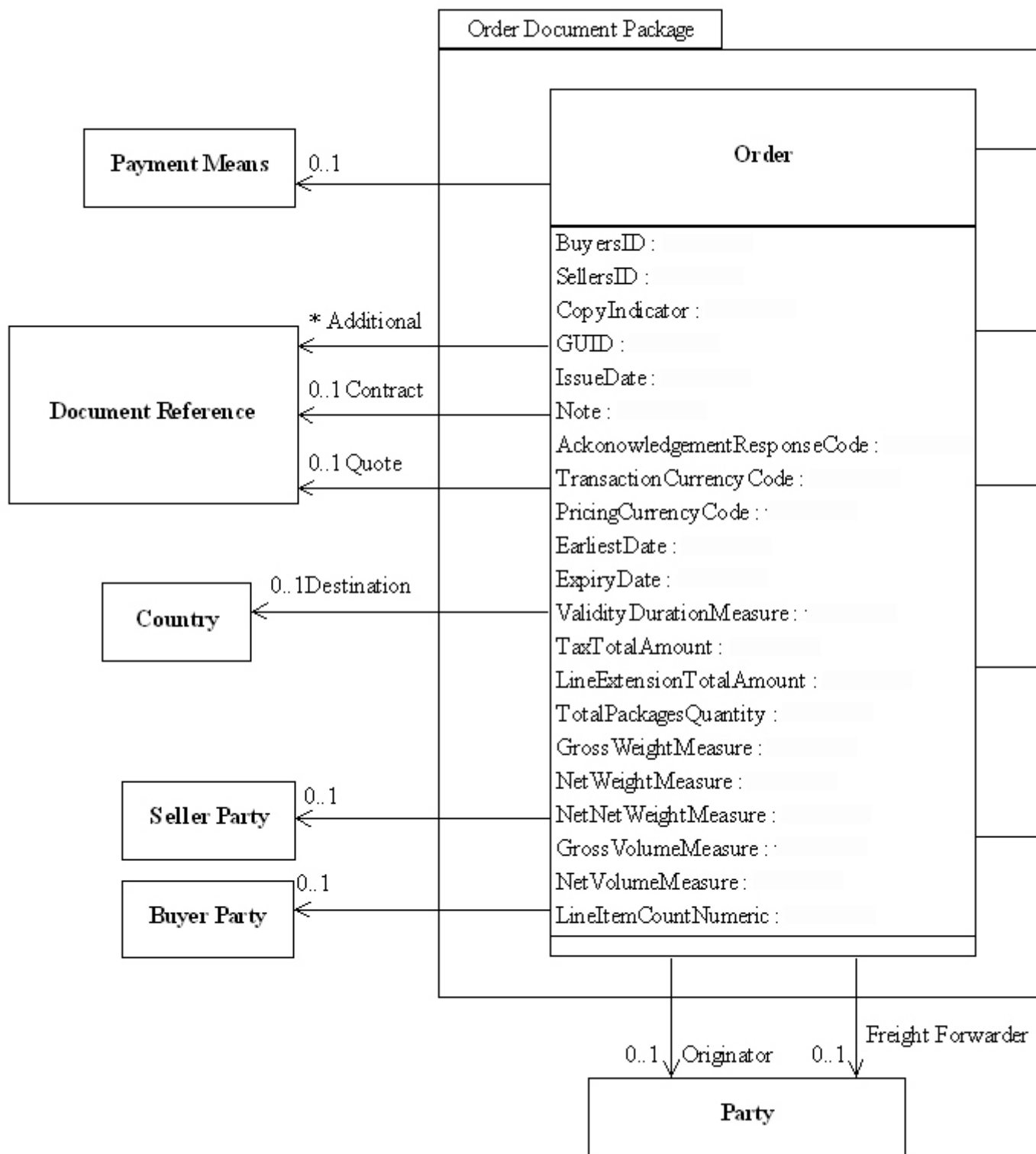
特別の指定は、これらのモデルにおける関係のために定義されない;それらは、どちらの方向においてもナビゲートされ得る。文書が組み立てられるとき、各関係のための特定のナビゲーションが定義される。

B.3 文書アセンブリモデル

前のセクションで述べられたコンポーネントとは異なるタイプの文書を定義するために、文脈(この場合は UBL 1.0 Procurement Process)及び[CCTS]によるメタデータ要求に基づき hierarchical な構造に組み立てられる。

文書アセンブリは、文書タイプのために Aggregate BIE (対象クラス)として UBL 1.0 を含む各々のビジネス文書の定義で始まる。文書タイプのための他の全ての Aggregate BIEs (対象クラス)は、必要とされたヒエラルキーを形成するために、この Aggregate BIE から関係を横切ることによって得られる。Aggregate BIEs の間の各関係に選ばれた役割は、関係 BIE (AssociationBIE)s になる。

例えば、トップレベルの UBL 1.0 Order 文書の文書アセンブリモデルは、UML クラス図を使うことの下方で示される。



B-4 注文文書アセンブリモデル

UBL 1.0 によって定義された 8 つのビジネス文書のトップレベル文書アセンブリモデルは、下で与えられる。

注文センプリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-OrderDocumentAssembly.jpg](#)

注文回答アセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-OrderResponseDocumentAssembly.jpg](#)

注文回答シンプルなアセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-OrderResponseSimpleDocumentAssembly.jpg](#)

注文変更アセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-OrderChangeDocumentAssembly.jpg](#)

注文キャンセルアセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-OrderCancellationDocumentAssembly.jpg](#)

出荷通知アセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-DespatchAdviceDocumentAssembly.jpg](#)

受領通知アセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-ReceiptAdviceDocumentAssembly.jpg](#)

請求 (invoice) アセンブリモデル

[uml/concept/assy/UBL-1.0-InvoiceDocumentAssembly.jpg](#)

UML を使う文書アセンブリモデルを開発することが可能である、と同時に、それは、スプレッドシート表記法、以下であるキー利点を使うために、實際上更に容易であることを発見された。

- [CCTS] 必要とされる追加のメタデータは、容易に定義される
- 定式は、規則を指定することに適用され得る
- スプレッドシートは、UN/CEFACT TBG17 が定めた直接候補の Core Components フォーマットにマップされ得る
- スプレッドシートは、データモデル化に関して責任があるビジネスエキスパートによく知られている
- そのフォーマットは、アプリケーションの間で携帯用であると証明された

これらの利点は、スプレッドシート表記法の主な欠点（モデル化言語そのものの参照の整合性コントロールの欠如である）を上回るのが感じられた;手動の編集は、変化の衝撃をコントロールするのに必要とされる。幸いにも、この場合、幸いにも、スプレッドシートから最終の Schemas を発生させるために使われる商業ツールは、同じくモデル完全性を証明することが可能であった。

B.3.1 スプレッドシートモデル

UBL は、コンポーネントのアセンブリを特定のタイプの文書に示すためにスプレッドシートを使う。各文書タイプの 1 つのスプレッドシートアセンブリモデルがある。

用語の後で、の [\[CCTS\]](#)、文書アセンブリモデルは、BBIE “Basic Business Information Entities“(コンポーネントモデルの属性)、Aggregate Business Information Entities (コンポーネントモデルの対象クラス)、及び、Associated Business Information Entities (コンポーネントモデルにおける関係の役割)の結合から成る。

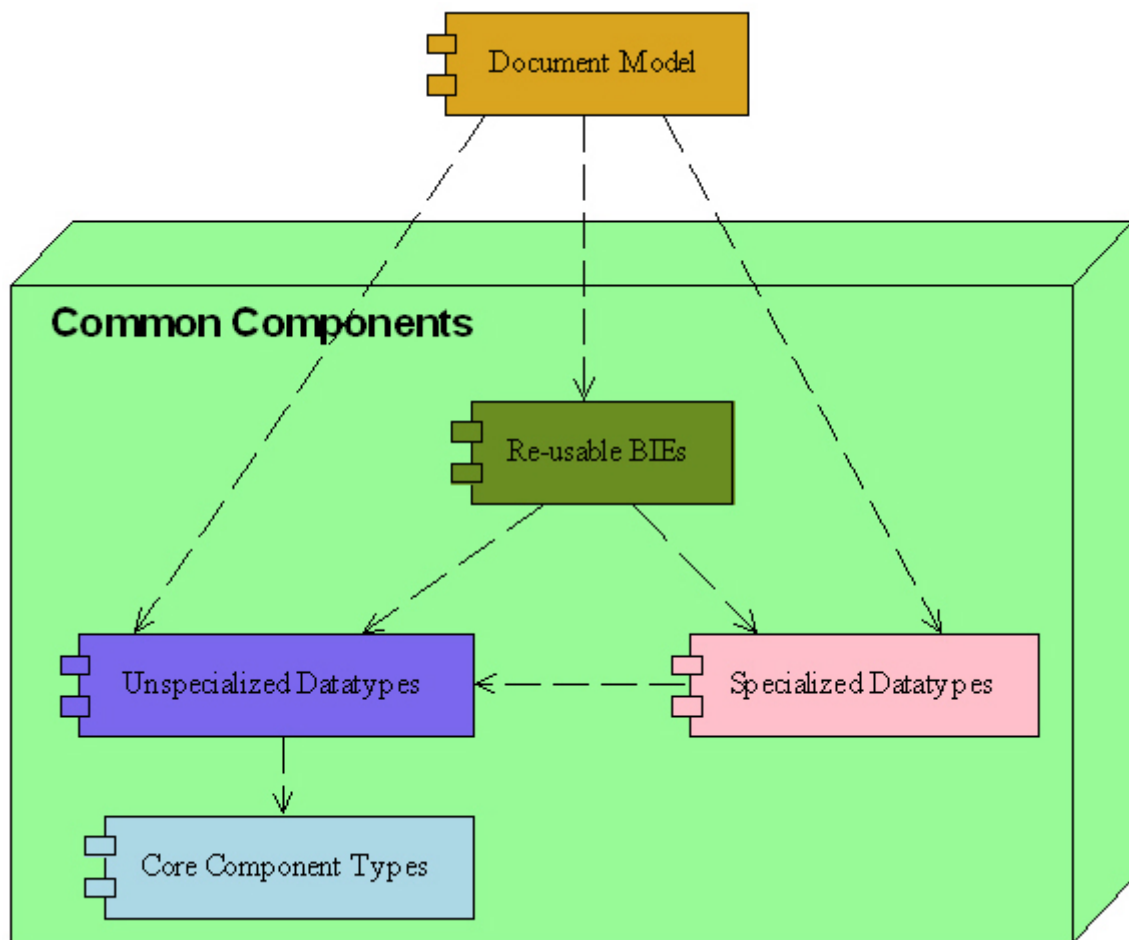
BBIEs は、データ構造の“ leaf nodes”、BBIEs を含む構造としての ABIEs、及び、別のものの中の 1 ABIE のコンテナ船としての ASBIEs であると考えられ得る。

スプレッドシートモデルは、コンポーネントを定義するために列を使う。コンポーネントは、BIEs かデータタイプのいずれかである。コラムは、各コンポーネントタイプと関連していたメタデータを定義する。多数のスプレッドシートコラムは、要求によって [\[CCTS\]](#) 決定される。

したがって、スプレッドシートアセンブリモデルは「根」ABIE から成るでしょう、BBIEs の 1 セット、そして、「根」ABIE に関連している ASBIEs。The ABIEs の 1 セットは Reusable BIE スプレッドシートモデルで定義されます。

BBIEs 全てのためのデータタイプは、同様に Unspecialized Datatypes スプレッドシートモデル、または、Specialized Datatypes スプレッドシートモデルにおいて定義される。

これらのスプレッドシートアセンブリモデルの間の依存は、下の図において示される。



B-5 スプレッドシートモデル依存

下で示されたように、このパッケージに含まれるスプレッドシートファイルは、マイクロソフトエクセルフォーマット（.xls）と、Open Office フォーマット（.sxc）の両方において供給される。

注意事項:UBL 文書 Schemas は、これらのスプレッドシートモデルから自動的に発生する。しかしながら、標準の形の UBL 文書は、これらのスプレッドシートモデルではなく、XSD Schemas そのもの（Section 6 に供給される）である。

B.3.2 文書スプレッドシート

各ビジネス情報実体（BIE）は、1つの列において定義される。列バックグラウンド色は、BBIE（白）、ABIE（ピンクの）、及び、ASBIE（グリーン）を区別する。

注文文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-Order-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-Order-1.0.xls](#)

注文回答文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-OrderResponse-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-OrderResponse-1.0.xls](#)

注文回答シンプルな文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-OrderResponseSimple-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-OrderResponseSimple-1.0.xls](#)

注文変更文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-OrderChange-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-OrderChange-1.0.xls](#)

注文キャンセル文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-OrderCancellation-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-OrderCancellation-1.0.xls](#)

出荷通知文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-DespatchAdvice-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-DespatchAdvice-1.0.xls](#)

受領通知文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-ReceiptAdvice-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-ReceiptAdvice-1.0.xls](#)

請求 (invoice) 文書スプレッドシート

[mod/maindoc/UBL-Invoice-1.0.sxc](#)

[mod/maindoc/UBL-Invoice-1.0.xls](#)

B.3.3 の一般のコンポーネントスプレッドシート

再利用可能な BIEs スプレッドシート

このモデルは UBL 中で使用される Aggregate Business 情報 Entities (ABIEs) を提供します、事実上、主なドキュメントを構成するための「ABIE タイプデータベース」として役立つ。このモデルは、カスタマイゼーションにおいて修正されるかもしれない。

キー:各ビジネス情報実体 (BIE) は、1つの列において定義される。列バックグラウンド色は、BBIE (白)、ABIE (ピンクの)、及び、ASBIE (グリーン) を区別する。

[mod/common/UBL-Reusable-1.0.sxc](#)

[mod/common/UBL-Reusable-1.0.xls](#)

コアコンポーネントタイプスプレッドシート

このモデルは、[CCTS] 定義された Core Component Types を供給する。これらのタイプは、標準化された、そして、一貫した方法において更に高いレベルの datatypes を組み立てるために使われる。このモデルは、修正されるべきでない。

キー:各コアコンポーネントタイプ (CCT) は、1つの列において定義される。列バックグラウンド色は、Supplementary Components (白)、及び、コアコンポーネントタイプ (ピンクの) を区別する。

[mod/common/UBL-CoreComponentTypes-1.0.sxc](#)

[mod/common/UBL-CoreComponentTypes-1.0.xls](#)

不特定の Datatypes スプレッドシート

このモデルは、[\[CCTS \]](#)定義された Unqualified Data Types を指定する。これらのタイプは、標準化された、そして、一貫した方法において更に高いレベルの datatypes を組み立てるために使われる。このモデルは、修正されるべきでない。

キー:各データタイプ (DT) は、1つの列において定義される。列バックグラウンド色は、Supplementary Components (白)、及び、データタイプ (ピンクの) を区別する。

[mod/common/UBL-UnspecializedDatatypes-1.0.sxc](#)

[mod/common/UBL-UnspecializedDatatypes-1.0.xls](#)

特定の Datatypes スプレッドシート

このモデルは、[\[CCTS \]](#)定義された Qualified Data Types を指定する。これらのタイプは、特定のインプリメンテーションに注文どおりに作られた更に高いレベルの datatypes を組み立てるために使われる。UBL は、Specialized Datatypes としてコードリストに対して識別を必要とする BBIEs のために datatypes を定義することに決めた。このモデルにおいて与えられたように、それらは、特定の形の一定値を持つ Code datatype である。これらのコードリストのインプリメンテーションが各コードリストのための個々の Schemas として実現することに注目しなさい。このモデルは、カスタマイゼーションにおいて修正されるかもしれない。

キー:各データタイプ (DT) は、1つの列において定義される。列バックグラウンド色は、Supplementary Components (白)、及び、データタイプ (ピンクの) を区別する。

[mod/common/UBL-SpecializedDatatypes-1.0.sxc](#)

[mod/common/UBL-SpecializedDatatypes-1.0.xls](#)

B.3.4 カスタマイジング・モデル

UBL を注文どおりに作ることを望むそれらが下の B.7 から参照を付けられた UBL 1.0 Schemas のカスタマイゼーションのガイドラインに従うべきである、と同時に、Component か Assembly モデルのいずれかを直接修正し、そして、UBL を新しい語彙のベースとして使うことに決める人々は、次の考察事項に気づいているべきである、それ、UBL を持つ衝撃両立性:

- 最初に、スプレッドシートモデルのあらゆる修正は、それらの構造、ebXML Core Components Technical Specification [\[CCTS \]](#)、及び、様々な UBL ライブラリ成分の理解を必要とする。例えば、いくつかの列は、直接アップデートされる、一方、他のものは、それらの細胞に定式を持っている、インプリメント [\[CCTS \]](#)、及び、UBL Naming、及び、Design Rules。この認識は、列内容を加えている、もしくは編集していたとき、必要である。注意は、定式を含む細胞をアップデートすることを回避するように払われるべきである。
- 第二に、スキーマ生成は、他の UBL コンポーネントライブラリと共に両立性を促進するために、UBL Naming、及び、Design Rules (下の B.4) と共に従順であるべきである。
- 3番目に、Core Component Types、及び、Unspecialized Datatypes モデルにおいて定義されたデータタイプは、[\[CCTS \]](#)定義されたそれらの直接的なイン

プリメンテーションであり、そして、この事実の認識なしでは修正されるべきでない。Specialized Data Types モデルは、インプリメンテーション-特定のデータタイプに提供される。

UBL 1.0 文書コンポーネント、及び、文書アセンブリモデルは、OASIS UBL Library Content Subcommittee の製品である。UBL LCSC の仕事は、LCSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-lcsc

B.4 UBL ネーミング、そして、設計規則

このパッケージに含まれる UBL XML Naming、そして、Design Rules (NDR) 照合表は、UBL 1.0 XSD 概要構造、及び、エレメント/属性の名前を決定するために使われる規則を示す。NDR 照合表は、次のファイルとしてこのパッケージにおいて発見され得る:

<doc/ndr/UBL-NDR-Checklist-1.0.pdf>

UBL ネーミング、そして、設計規則は、OASISUBL NDR 小委員会の製品である。UBL NDRSC の仕事は、NDRSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-ndrsc

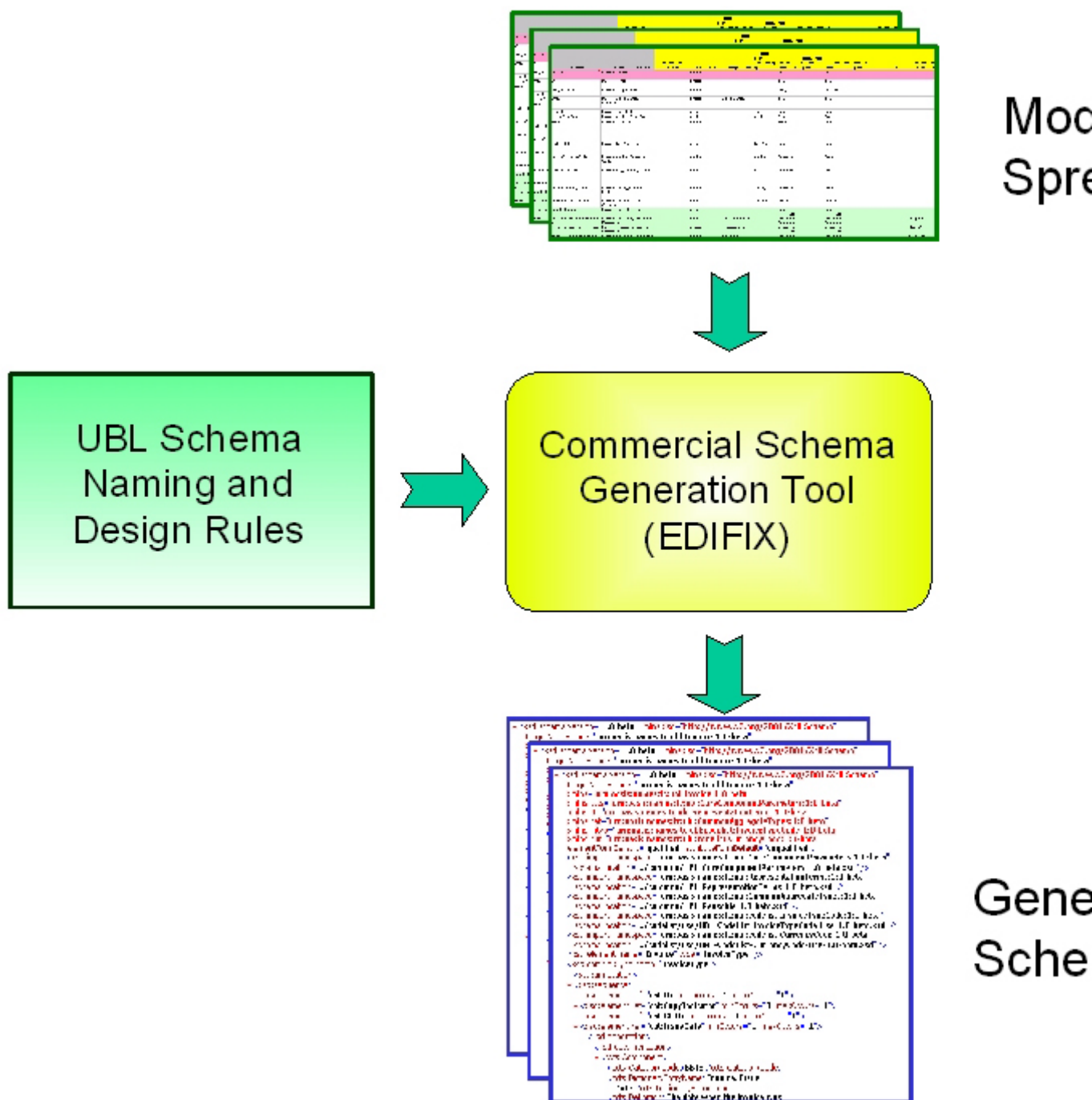
B.5 Schemasの生成

UBL 1.0 XSD Schemas は、スキーマ設計規則を上記の B.3 において示された UBL スプレッドシートによって表された Data Model に適用する変形のアウトプットである。変形プロセスは、次のステップから成った:

1. データモデルスプレッドシートを丹念に調べること
2. 各スプレッドシートから増大すること、内部の UML-ベースのモデル、
3. 適切であるので、コードリストの外部の基準を識別し、しかも、標準のコードを含むことは、値をリストする
4. UBL ネーミング、そして、設計規則を適用すること
5. conformant XSD Schemas をアウトプットすること

商業の CC-aware であるスキーマ生成ツール、GEFEG EDIFIX 5.0 は、UML データモデルとしてスプレッドシートを読むために使われ、それらと共に Q/A を遂行し、そして、下で例証されたように、UBL 1.0 Naming、及び、Design Rules に付着する概要表現を

生み出す。GEFEG EDIFIX に関する情報のために、
<http://www.gefeg.com/en/standard/xml/ubl.htm> 見る。GEFEG EDIFIX 5.0 UBL Reader は、自由で、そして、UBL Schemas、そして、データモデルの容易な見ることを提供する。GEFEG EDIFIX UBL リーダに関する情報のために、
<http://www.gefeg.com/en/edifix/reader-ubl.html> 見る。



B-6 UBL Schemas の生成プロセス

UBL 仕様の前のドラフトは、このプロセスのために異なるツールを使った。1.0 Beta Schemas を UBL にもたらすために使われるプロセスの記述のために、<http://www.oasis-open.org/committees/ubl/lcsc/UBLv1-beta/>で 1.0 Beta Committee Draft の Appendix D を見る。

UBL 1.0 概要生成は、OASIS UBL Tools、及び、Techniques Subcommittee の方向の下で行われた。UBL TTSC の仕事は、TTSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-ttsc

B.6 インプリメンテーションモデル

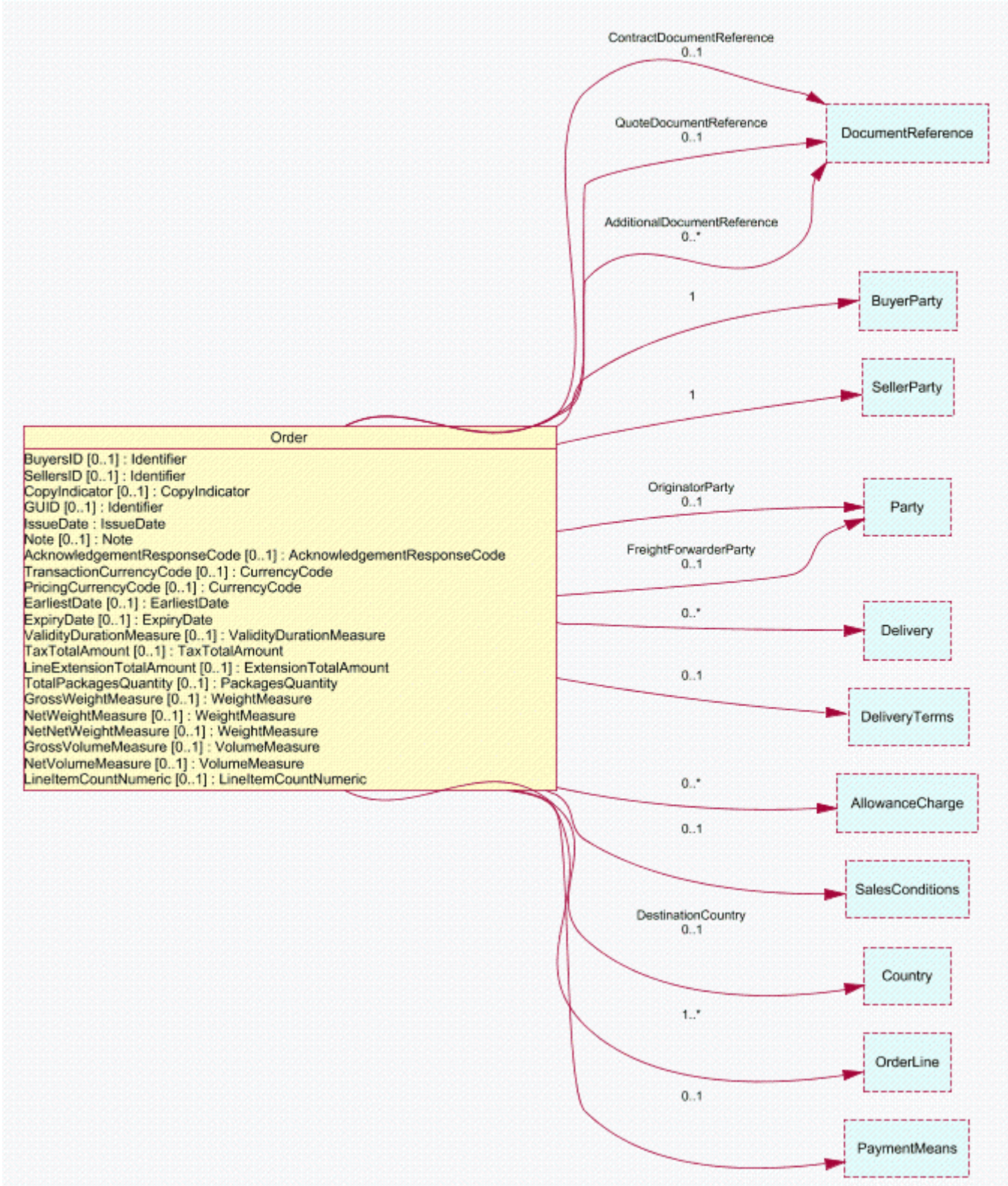
UBL のインプリメンテーションモデルは、UML モデルとして現実の UBL XSD Schemas を表す。これは、Schemas を Unified Modeling Language [UML] を持つモデル conformant に自動的に変えることによって生産される。このモデルは、各々の主な文書を例証するクラス図のセット、及び、再利用可能なコンポーネントのいくらかの見解を生み出すためにそれから使われる。自動化された変形、及び、図創造は、商業 Schema-to-UML 変形ツール、Ontogenics ハイパー-モデルを用いて行われた。この製品に関する更なる詳細のために、<http://www.xmlmodeling.com/> 見る。

このセクションに含まれる UML クラス図は、XSD シンタックスの理解を必要とせずに UBL Schemas を理解するのを助けることを意図している。これをするために、それらの図は、Schemas に含まれるいくらかの詳細を故意に隠す。例えば、複合的なタイプ定義の中のエレメントの注文に関する情報は、図において守られない。UML モデルをソフトウェアエンジニアリングにとって有益にするために他の変更が行われた; XSD 構文の如何にかかわらずオブジェクトクラス名をもたらすために UML クラス名を作成するとき、例えば、XSD complexType 名の「タイプ」接尾語を取り除きます、そして、クラス属性として簡単な満足している値に従った複素数型子供要素を表しますが、それらへの協会がクラスをタイプするとき、複雑な内容がある要素を表します。

これらの図は、文書アセンブリスプレッドシートモデルの相当する UML である。

B.6.1 文書インプリメンテーション図

インプリメンテーションクラス図は、8 UBL 1.0 文書タイプの各々のために造られた。上で注目に値されたように、インプリメンテーション図は、これらの総合した構造に含まれるタイプの詳細を隠す単純化された見解である。例として、UBL Order 文書のためのクラス図は、下の数字において示される。



B-7 注文文書のインプリメンテーションモデル

UBL 1.0 パッケージに含まれる文書インプリメンテーションクラス図は、下でリストされる。

注文インプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-OrderImplementationDiagram-1.0.gif>

注文回答インプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-OrderResponseImplementationDiagram-1.0.gif>

注文回答シンプルなインプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-OrderResponseSimpleImplementationDiagram-1.0.gif>

注文変更インプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-OrderChangeImplementationDiagram-1.0.gif>

注文キャンセルインプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-OrderCancellationImplementationDiagram-1.0.gif>

出荷通知インプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-DespatchAdviceImplementationDiagram-1.0.gif>

受領通知インプリメンテーション図

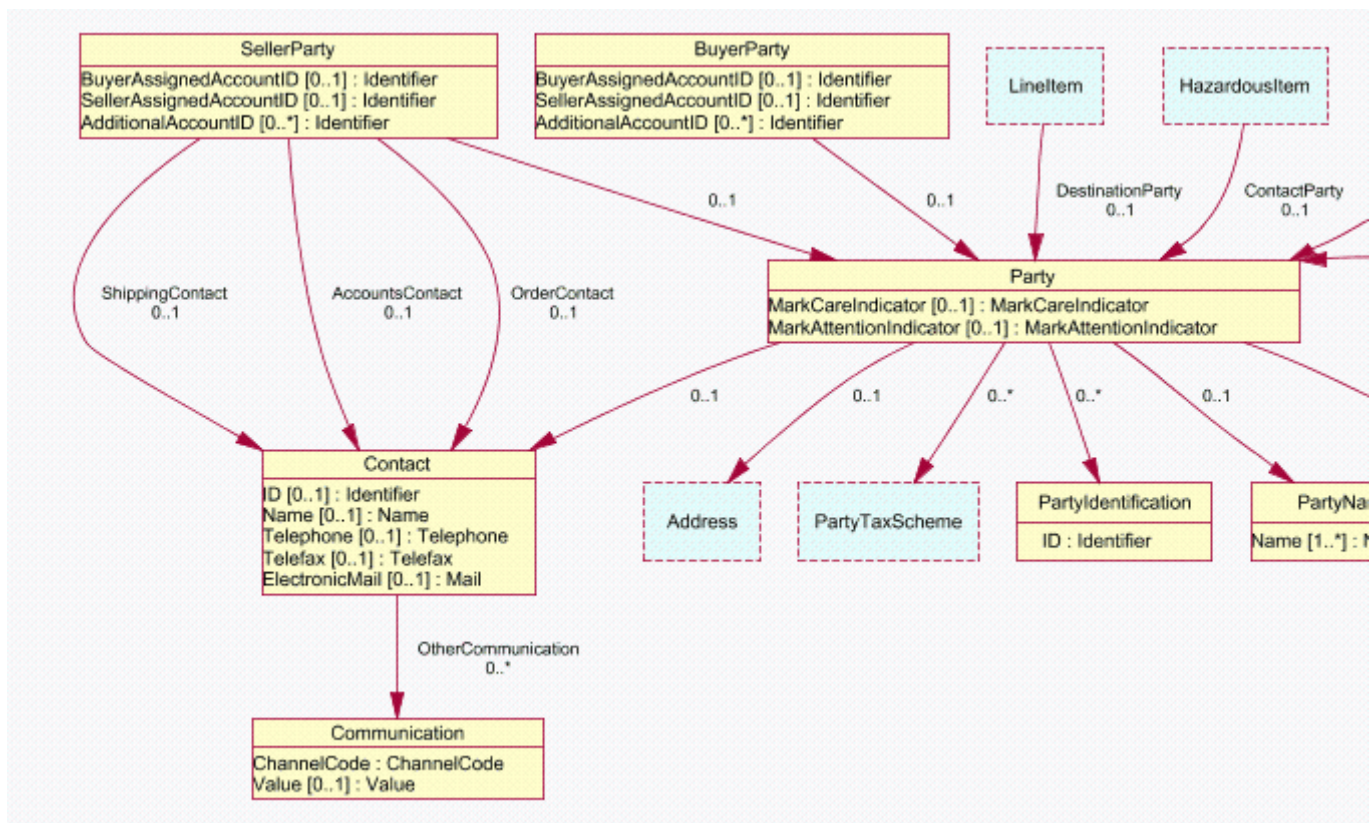
<uml/implement/doctypes/UBL-ReceiptAdviceImplementationDiagram-1.0.gif>

請求 (invoice) インプリメンテーション図

<uml/implement/doctypes/UBL-InvoiceImplementationDiagram-1.0.gif>

B.6.2 の再利用可能なコンポーネントインプリメンテーション図

主な文書図に加えて、このリリースは、10 のクラス図（文書において使われる再利用可能なコンポーネントのパッケージの見解を提示する）を含む。例えば、Order 図は、Party、売手 Party、及び、買手 Party に関係を含む。次のインプリメンテーション図は、詳細にこれらのコンポーネントを示す。



B-8 パーティコンポーネントのインプリメンテーションモデル

UBL 1.0 を供給されたコンポーネントインプリメンテーション図は、次のとおりである:

アドレスインプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-AddressImplementationDiagram-1.0.gif>

契約インプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-ContractImplementationDiagram-1.0.gif>

配送ラインインプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-DespatchLineImplementationDiagram-1.0.gif>

文書リファレンス・インプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-DocumentReferenceImplementationDiagram-1.0.gif>

冒険的な商品(アイテム)インプリメンテーション図

[uml/implement/packages/UBL-Hazardous 商品 ImplementationDiagram-1.0.gif](uml/implement/packages/UBL-Hazardous%20商品ImplementationDiagram-1.0.gif)

商品(アイテム)インプリメンテーション図

[uml/implement/packages/UBL-商品 ImplementationDiagram-1.0.gif](uml/implement/packages/UBL-商品ImplementationDiagram-1.0.gif)

パーティインプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-PartyImplementationDiagram-1.0.gif>

支払いインプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-PaymentImplementationDiagram-1.0.gif>

調達インプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-ProcurementImplementationDiagram-1.0.gif>

出荷インプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-ShipmentImplementationDiagram-1.0.gif>

税インプリメンテーション図

<uml/implement/packages/UBL-TaxImplementationDiagram-1.0.gif>

B.7 カスタマイゼーションガイドライン

いかに互換性があるカスタマイゼーションが可能ではないとき、続くかのために提案と共に UBL Schemas と互換性があるカスタマイゼーションを行うためにガイドライン、このパッケージにおいて発見され得る、際、

<doc/cm/wd-ubl-cmsc-cmguidelines-1.0.html>

UBL カスタマイゼーションガイドラインは、OASISUBL コンテキスト方法論小委員会の製品である。UBL CMSC の仕事は、CMSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-cmsc

アペンディクス C (有益な): フォーマット イング仕様

UBL 1.0 パッケージは、ハイパードキュメントにおいてフォーマット仕様にもとづく広いセットを含む、

<fs/index.html>

同じくパッケージのこの部分は、下の Appendix D で供給された例場合の PDF 演技表現を含む。

UBL 書式設定仕様は、OASISUBL フォーム提示小委員会の製品である。UBL FPSC の仕事は、FPSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-fpsc

アペンディクス D (有益な): 実装例

このアペンディクスは、注文から請求までのプロセスの 2 つの異なる説明に使われる UBL 文書の例を提供する。例の最初のセットは、事務用品の購入を例証し、そして、第 2 のセットは、建具職 (建設用備品) の購入を例証する。同じく含まれる、Appendix C で参照を付けられた書式設定仕様に従って造られた各例文書のプリントされたバージョンである。

D.1 例 1 : 事務用品を買うこと

買手の Bill's Microdevices, はいくつかの異なる商品をオフィスサプライストアで注文します。またサプライヤの商品コードや価格を知っています。

事務用品 Order 例場合

<xml/office/UBL-Order-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/Order/pdf/OfficeOrder.Example-a4.pdf>

<fs/Order/pdf/OfficeOrder.Example-us.pdf>

その買手は、オリジナルの注文を変えることを決定する。

事務用品の注文変更

<xml/office/UBL-OrderChange-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/OrderChange/pdf/OfficeOrderChange.Example-a4.pdf>

<fs/OrderChange/pdf/OfficeOrderChange.Example-us.pdf>

売手、(ジョー事務用品、オーダの受理を示すための Order Response Simple による応答)。同じく売手は、彼の参照番号を注文に与える、すなわち、それらの販売は、彼のシステムにおいて命令し、そして、彼にあらゆる質問があるならば、誰に連絡するかを買手に告げる。

事務用品の注文回答 (簡易)

<xml/office/UBL-OrderResponseSimple-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/OrderResponseSimple/pdf/OfficeOrderResponseSimple.Example-a4.pdf>

<fs/OrderResponseSimple/pdf/OfficeOrderResponseSimple.Example-us.pdf>

その買手は、Order (同じものではなく実例の目的のために) をキャンセルする。

事務用品の注文キャンセル

<xml/office/UBL-OrderCancellation-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/OrderCancellation/pdf/OfficeOrderCancellation.Example-a4.pdf>

<fs/OrderCancellation/pdf/OfficeOrderCancellation.Example-us.pdf>

その売手は、命令された商品(アイテム)を急送の買手に通知する。

事務用品の出荷通知

<xml/office/UBL-DespatchAdvice-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/DespatchAdvice/pdf/OfficeDespatchAdvice.Example-a4.pdf>

<fs/DespatchAdvice/pdf/OfficeDespatchAdvice.Example-us.pdf>

その買手は、欠けている商品(アイテム)を売手に通告する。

事務用品受領通知に実装零

<xml/office/UBL-ReceiptAdvice-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/ReceiptAdvice/pdf/OfficeReceiptAdvice.Example-a4.pdf>

<fs/ReceiptAdvice/pdf/OfficeReceiptAdvice.Example-us.pdf>

その急送が発生するとき、その売手は、自動的に Invoice を上げ、そして、不足等の分解は、扱われたポスト-請求(invoice)を作ることである。Invoice は、課税額を示す。その売手は、支払いが Invoice の 30 日以内に支払われるべきであることに注目する。

事務用品 Invoice の実装例

<xml/office/UBL-Invoice-1.0-Office-Example.xml>

プリントアウト

<fs/Invoice/pdf/OfficeInvoice.Example-a4.pdf>

<fs/Invoice/pdf/OfficeInvoice.Example-us.pdf>

D.2 例 2 :建具職 (建設用備品) を買うこと

買手、Jerry Builders、UK における社は、いくつかの窓、ドアセット、及び、建築現場への供給のための材木のいくつかの長さを整理する。ジェリーは、商品 s、及び、それのためにサプライヤのコードを知っている…彼は、いくつかの物理的属性が彼が必要とする正確な商品を得ると同じく明示しなければならない ;いくつかの窓は、非対称的であり、右もしくは左で“ handed” される。大部分のドアセットは、1つのサイドで蝶番が付いているので、手がある;木、及び、その終りは、指定されなければならない、… ~同じくらい…“ fittings”(ハンドル、滞在等)。商品(アイテム)は、異なる方法でガラスをはめられ得る。緩い材木は、その断面積に従ってコード化され、そして、その長さ

は、指定されなければならない。その買手がこれらのものをカタログと区別する、と同時に、彼は、得るかもしれない時価、及び、全く割引率を知らない。

建具職注文例場合

<xml/joinery/UBL-Order-1.0-Joinery-Example.xml>

プリントアウト

<fs/Order/pdf/JoineryOrder.Example-a4.pdf>

<fs/Order/pdf/JoineryOrder.Example-us.pdf>

売手、Specialist Windows PLC は、各商品(アイテム)の単価を示し、そして、与えられるであろう業者間取引を買手に通知するために、詳細な Order Response と共に返答する。それと同時に、その売手は、彼の参照番号を注文、すなわち、彼のシステムにおける注文の同一性に与え、そしてまた、彼にあらゆる質問があるならば、誰に連絡するかを買手に告げる。

建具職注文回答の実装例

<xml/joinery/UBL-OrderResponse-1.0-Joinery-Example.xml>

プリントアウト

<fs/OrderResponse/pdf/JoineryOrderResponse.Example-a4.pdf>

<fs/OrderResponse/pdf/JoineryOrderResponse.Example-us.pdf>

その売手は、命令されたアイテムを急送の買手に通知する、そして、それは、実際“ A”、及び、“ B” であると確認された 2 つのパレット(すなわち、…輸送ユニット)に届けられるであろう。それらのアイテムが順番に線を引く Despatch Advice リスト…連続、そして、そのアイテムが配達されるパレットを参照する。

建具職出荷通知の実装例

<xml/joinery/UBL-DespatchAdvice-1.0-Joinery-Example.xml>

プリントアウト

<fs/DespatchAdvice/pdf/JoineryDespatchAdvice.Example-a4.pdf>

<fs/DespatchAdvice/pdf/JoineryDespatchAdvice.Example-us.pdf>

Despatch Advice は、供給と共に旅行する;紙コピーは、受取りの証拠として署名されて、返される。従って、UBL 受領通知は、使われない。

その急送が発生するとき、売手は、自動的に Invoice を上げ、そして、あらゆる不足の分解は、扱われたポスト-請求(invoice)を作ることである。Invoice は、税ポイント日付、その商品(アイテム)が属する付加価値税(Value Added Tax)カテゴリ、そしてまた、付加価値税レート、及び、請求(invoice)上の各税区分のためのトータルを示さなければならない。付加価値税は、同じく供給追加料金のようなチャージに適用される。満期支払高の速い支払いを奨励するために、売手は、迅速な解決(30日以内に支払っているならば、その買手が差し引くことができる)のために割引をする。(この例は、

規則が割引かれた取引に関して付加価値税がとられるであろう、従って、この税が計算される、と推測するコンテキストのためにライン商品(アイテム)、プラス、あらゆるチャージのトータル、及び、あまり解決が量を割引かないということを手紙で知らせられた。)

建具職請求 (invoice) に実装例

<xml/joinery/UBL-Invoice-1.0-Joinery-Example.xml>

プリントアウト

<fs/Invoice/pdf/JoineryInvoice.Example-a4.pdf>

<fs/Invoice/pdf/JoineryInvoice.Example-us.pdf>

この例は、製品、製品識別、ビジネス要求、及び、真の UK 建具職メーカー、及び、販売会社の実践に基づいている。それは、それ自身の特定の輸送艦隊、英国の至る所の、そして、沖合の島への荷渡しを手術する。

アペンディクス E (有益な) :コードリスト

UBL 1.0 に含まれるコードリスト Schemas は、Code List Representation (このパッケージにおいて発見され得る、際) のための UBL 仕様に順応する

<doc/cl/wd-ublclsc-codelist-20040420.pdf>

UBL コードリスト表現仕様は、OASISUBL コードリスト小委員会の製品である。UBL CLSC の仕事は、CLSC ウェブページで見られ得る:

http://www.oasis-open.org/committees/sc_home.php?wg_abbrev=ubl-clsc

アペンディクス F (有益な) :ASN.1 仕様

下で参照を付けられた UBL ASN.1 仕様は、ITU-T X.680-X.693 [[ASN.1](#)] に従った UBL 文書に代替概要定義を提供する。UBL ASN.1 仕様は、正当な UBL 文書の標準の定義を構成する Section 6 において UBL XSD Schemas と同じ UBL 文書を定義する。UBL ASN.1 XML 概要によって、ASN.1 ツールは UBL 移動のために使われることが可能になり、そして、ASN.1 Packed Encoding Rules と共に、それは、UBL メッセージの効率的な 2 元エンコーディングに仕様を提供する。

UBL ASN.1 仕様

<asn/ASN.1-UBL-1.0.html>

ASN.1 UBL 仕様は、順応する [OSS Nokalva](http://www.oss.com/) (<http://www.oss.com/>) から ITU-T Recommendation X.694 までツールを用いて造られた XSD 概要を ASN.1 に変えるための独房/IEC 8825-5。変換の後で、発生した ASN.1 は、[ASN.1 Information Site](http://asn1.elibel.tm.fr) (<http://asn1.elibel.tm.fr>) の PrettyPrint ツールによってこのパッケージに含まれる HTML ファイルを生産するためにフォーマットされた。

アペンディクス G (有益な) : 進行中の作業商品 (アイテム)

UBL 1.0 は、UBL チャーターの最初のフェーズの基礎的な目的を達成する; XML ビジネス文書の使える標準のライブラリを開発するために。セカンド・フェーズ (UBL 2.0) は、UBL ライブラリ、及び、概要セット、及び、コンテキスト-特定のビジネス Schemas の自動世代のメカニズムへの追加を生み出すことを意図している。

これらの間に、マイルストーンは、ある、いくつかの仕事商品 (アイテム)、それは、どういふわけか完成されないであろう、UBL 1.0 の供給に間に合うように。いくつかのこれらの商品 (アイテム) は、継続的関心の仕事を表す;他のものは、問題が UBL 1.0 供給 (受け入れられる短期戦略が UBL 1.0 文書の長期の妥当性に対する衝撃はほとんどなしで採用されるであろう) にセットされた時間の内にコンセンサスソリューションを達成しないであろう場合を表す、場合。UBL TC は、これらの問題を解決し、そして、UBL 1.0 場合を持つ上位互換性であろう UBL 1.1 と呼ばれるアップデートされたバージョンをリリースするつもりである。

下記において、これらの仕事商品 (アイテム) は、4 つの見出しの下で緩く集められた: NDR 仕事商品 (アイテム)、インタオペラビリティ仕事商品 (アイテム)、登記仕事商品 (アイテム)、及び、局部化は、商品 (アイテム) を機能させる。仕事のこのプログラムに参加することに関心を持つ人は、OASIS UBL TC を結合するよう勧められる。

G.1 NDR 仕事商品 (アイテム)

次の商品 (アイテム) は、UBL Naming、及び、Design Rules (NDR) と関係がある。

個別の仕様としての UBL NDR の G.1.1 発表

時間制限は、UBL 1.0 による供給のための個別の仕様としての UBL Naming、そして、Design Rules (NDR) 文書の完成を妨げた;このパッケージに含まれ、そして、1.0 のために規則照合表のみ含むように [NDR]、参照を付けられた文書。仕事は、個別の OASIS 技術仕様として服従に備えて NDR 文書を準備し続ける。

コードリストカスタマイゼーションのための G.1.2 代用グループ

UBL Code List Subcommittee は、コードリストカスタマイゼーションの件を XSD 代用グループに頼るコードリスト（Appendix E を見る）に対する包括的な解決を生み出した。ビジネス文書 Schemas における XSD 代用グループの使用に関して明瞭な産業コンセンサスを欠いて、UBL TC は、コードリストの未決定の更なる討論のためにこの拡張メカニズムの採用を延期した。注意は、UBL 1.0 場合を無効にすることなしの後のリリースにおける代用グループ（適切であると思われたならば）の採用を許すであろう方法で UBL 1.0 を組み立てるように払われた。

G.1.3 Codelist スキーマモジュールの Importation

Specialized Datatype スキーマ（セクション 6.2.2）によって、もしくは、直接 Common Aggregate Component スキーマ（セクション 6.2.1）、及び、それらが使われるあらゆる個々の文書 Schemas に間接的に codelist スキーマモジュール（セクション 6.3）を輸入することが更に良いか否かに拘らず、それは、未決問題である。UBL 1.0 において、codelist スキーマモジュールは、直接輸入される。しかし、懸念は、可能なパフォーマンスに対する衝撃に関して生じた。UBL 1.0 インプリメンテーションからのフィードバックは、この問題を解決する際頼られるであろう。これに代るものへの変化は、UBL 1.0 例を好むと予測されない。

G.1.4 資格のある BBIE 特質エレメント定義の場所

UBL 1.0 において、全ての BBIE 特質は、エレメントとして宣言され、そして、Common Basic Components スキーマ（セクション 6.2.1）における複合的なタイプと定義される。代わりに、資格のある BBIE 特質エレメントは、どちらにおいても宣言されるであろう、Common Aggregate Components スキーマ、～もしくは、個々の文書 Schemas において、それらがどこにあるかは、使用した。この問題は、開いた状態を維持する。しかし、将来のリリースの変化は、UBL 1.0 場合に全く影響を及ぼさないであろう。

G.2 登記仕事商品（アイテム）

次の問題は、UBL Schemas の保管、及び、登録に関係する。

G.2.1 スキーマモジュールにおける相対的な道

UBL NDR は、スキーマロケーションのための絶対的な名の必要条件を識別した（一貫性、明瞭さ、及び、UBL の標準の Schemas が実際使われつつあるという絶対的な保証を保証するために標準の必要な必要条件が Schemas の基礎を築いたので）。しかしながら、現在の OASIS アーキテクチャ制限は、この要求を立証するために、適当な登記/貯蔵所の有用性を排除する。その結果、UBL 1.0 は、オフラインの識別を促進し、そして、それらの制限の周辺で働くために、Schemas の場所のための相対的な道名を用いて解放された。支援するインフラストラクチャが利用可能になるので、絶対的

道、及び、コンポーネントライブラリのための登記の使用は、将来のバージョンにおいて実行されるであろう。

G.2.2 全ての BIE の文書におけるバージョンエレメント

UBL 1.0 は、各 UBL datatype、及び、BIE のバージョン数が同じく 1.0 であると推測する。しかしながら、これが概要構造物人工品、または、貯蔵人工品であるかどうかに関してはいくらかの議論がある。この決定の結果は、datatype、及び、BIE 概要が構成する各々の注釈文書におけるバージョン番号を定めるために、要求に帰着するかもしれない。

G.3 インタオペラビリティ ワークアイテム

次のワークアイテムは、産業を横断して、そして、他のビジネス文書標準に関して UBL 文書のインタオペラビリティに関係する。

G.3.1 UBL 準拠

非常に最初の仕事が UBL 1.0 Customization Guidelines (Appendix B.7 を見る) で UBL 準拠の概念を定義する方へされた、と同時に、更なる仕事は、UBL 準拠 (法律上の、そして規定のコンテキストにおいて使用できる) の定義を引き起こすために必要である。

G.3.2 産業プロフィール

特別な産業、及び、地理的領域の中でスタンダードであるバージョンを造るために UBL 1.0 が UBL Customization Guidelines に従って修正されるであろうということが多分考えられる。更なる仕事は、この使用ケースに特有のガイドラインを開発するのに必要とされる。

G.3.3 一般の CCTS Schemas

このパッケージ (セクション 6.2.2) に含まれる Core Component Types、及び、Datatypes のための Schemas は、Open Applications Group 社の代表と協力して開発された。しかし、2 つの組織によって現在使われるバージョンは、まだ同じではない。UBL 1.0、及び、OAGIS 9.0 に使われる CCTS Schemas の間の差異は、これらの 5 つのエリアで識別された:

- 属性としての補足のコンポーネントのネーミング
- コード、識別子、及び、テキストコンポーネントのための XSD normalizedString の使用

- フォーマットの補足のコンポーネント（日付時間、インジケータ、及び、数値）を必要とする XSD の組み込み式の datatypes の使用
- グラフィック、絵、音、及び、ビデオデータタイプのための 2 元対象に対する制限
- Indicator データタイプのためのパターン

CCTS Schemas の一般のセットは、UBL 1.1 に利用可能であると予測され、そして、その時含まれるであろう。これは、UBL 1.0 場合の妥当性に影響を及ぼすと予測されない。

G.3.4 コアコンポーネント調和

インプリメンテーションとして、の[CCTS]、UBL は、ビジネスコンポーネントの一般の意味のライブラリ概念をサポートする。これを達成するために UBL が調和に関する UN/CEFACT 国際貿易、及び、ビジネス手続きワーキング・グループによって働いている（TBG17（http://webster.disa.org/cefact-groups/tbg/wg/tbg17_main.cfm）として知られてい）このグループは、取引条件、ビジネスデータの意味の定義、及び、データ交換を structuring することの簡潔で、明確な用語解説に貢献するビジネス領域、及び、セクタを横断するビジネスプロセスモデル、及び、コアコンポーネントの一貫性、及び、調和に関して責任がある。TBG17 との協力は、UBL のための継続的な仕事商品(アイテム)である。

G.3.5 コンテキスト方法論

自動コンテキスト方法論の供給が UBL 2.0 に属する、と同時に、この商品(アイテム)に関する仕事は、UBL 1.1 タイムフレームに続く。これは、この仕様の B.7 において参照を付けられた Customization Guidelines の更なる精製を含む。

G.4 ローカライズ作業

UBL は、UBL 仕様、及び、関連する文書を英語以外の言語に翻訳し、そして、非-英語を話す地方のコンテキストにおいて UBL 努力を表すために、いくつかのローカライズ（L10N）小委員会を形成した。これらの地方のイニシアティブは、UBL 1.1 タイムフレームに行われるために、仕事の大部分の原因となるであろう。2004 年 4 月現在で、UBL ローカライズ小委員会は、中国語、日本語、韓国語、及び、スペイン語のために設立された。

アペンディクス H :注意

著作権© 20012004 年 OASIS オープンが版權所有。

全く知的財産、及び、他の権利の妥当性、及び、範囲に関するポジションは、OASIS にそれを要しない、である、インプリメンテーションと関係がある、もしくは、使用すると主張した、この文書、または、範囲において示された技術のうちで、に、全くライセンス、下に、そのような権利、及び、利用可能ではないであろう;そしてまた、それは、あらゆるそのような権利を識別することが、あらゆる努力をしたことを示さない。OASIS に関する情報は、OASIS 仕様において整然と点による手続きである、OASIS ウェブサイトで発見され得る。発表に利用可能にされた権利のクレーム、及び、利用可能にされるライセンス、または、implementors によるそのような所有権の使用に一般的ライセンス、または、許可をもたらさせられた試みの結果のあらゆる保証のコピー、または、この仕様のユーザーは、OASIS Executive Director から獲得され得る。

OASIS は、その注意をあらゆる著作権、特許、または、特許出願、または、この仕様を実行するのに必要とされるかもしれない技術をカバーするかもしれない他の所有権に向けるようあらゆる利害関係者に勧める。どうぞ、情報を OASIS Executive Director に申し立ててください。

それのこの文書、及び、翻訳は、コピーされ、そして、他のもの、及び、論評する派生した仕事に供給されるかもしれない、へ、～もしくは、他の場合はそれに説明する、～もしくは、そのインプリメンテーションを援助する、前述の著作権情報、及び、このパラグラフが含まれるならば、あらゆる種類の制限なしで準備をされて、写されて、公表されて、分配される（全部もしくは一部）へ、全て、そのようなコピー、及び、派生した仕事。しかしながら、この文書そのものは、いかなる点でも修正されないかもしれない（OASIS 仕様を開発するために必要とされるように、著作権のための手続きが OASIS Intellectual Property Rights でどちらのケースを定義したかで文書が進められなければならないということを除けば、もしくは、それを英語以外の言語に翻訳する必要があるように、著作権情報、または、参照を OASIS に取り除くことのように）。

上で与えられた限られた許可は、永続的で、そして、OASIS、及び、その後継者、及び、譲受人によって取り消されないであろう。

This document and the information contained herein is provided on an “AS IS” basis and OASIS DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTY THAT THE USE OF THE INFORMATION HEREIN WILL NOT INFRINGE ANY RIGHTS OR ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.